

アジア地域における DAB・アジュディケーター 導入・普及体制整備のための企画検討調査

調査報告書

平成 23 年 3 月
(2011 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

委託先
日本工営株式会社
(社) 日本コンサルティング・エンジニア協会

資金

JR

11-001

アジア地域における DAB・アジュディケーター 導入・普及体制整備のための企画検討調査

調査報告書

平成 23 年 3 月
(2011 年)

独立行政法人
国際協力機構 (JICA)

委託先
日本工営株式会社
(社) 日本コンサルティング・エンジニア協会

アジア地域におけるDAB・アジュディケーター
導入・普及体制整備のための企画検討調査

調査報告書

目 次

1	調査業務概要.....	1-1
1.1	調査の背景.....	1-1
1.2	調査の目的.....	1-1
1.3	調査の体制.....	1-2
1.4	調査の工程.....	1-2
2	現地調査 - I (アジュディケーター研修と資格審査に関わる先行事例調査)	2-1
2.1	現地調査の目的.....	2-1
2.2	調査内容.....	2-1
2.3	調査結果.....	2-1
2.3.1	総論.....	2-1
2.3.2	ドイツ.....	2-2
2.3.3	ポーランド.....	2-4
2.3.4	ルーマニア.....	2-5
2.3.5	フィリピン.....	2-6
3	現地調査 - II (MDBにおけるDB運用調査)	3-1
3.1	現地調査の目的.....	3-1
3.2	調査内容.....	3-1
3.3	調査結果.....	3-1
3.3.1	総論.....	3-1
3.3.2	アジア開発銀行 (ADB).....	3-2
3.3.3	世界銀行 (WB).....	3-2
3.3.4	米州開発銀行 (IDB).....	3-3
4	現地調査 - III (Dispute Resolution Board Foundation)	4-1
4.1	現地調査の目的.....	4-1
4.2	調査結果.....	4-1
5	アジュディケーター・トレーニングワークショップ.....	5-1
5.1	トレーニングワークショップの目的.....	5-1
5.2	トレーナーの選定.....	5-1
5.3	受講者の募集.....	5-2

5.4	トレーニングワークショップの内容.....	5-4
5.5	アンケート調査の結果と分析.....	5-5
6	アジュディケーター・アセスメントワークショップ.....	6-1
6.1	アセスメントワークショップの目的.....	6-1
6.2	アセスメントパネルの設置.....	6-1
6.3	書類審査の実施と結果.....	6-1
6.4	アセスメントの方法.....	6-2
6.5	アセスメントの結果.....	6-3
6.6	アセスメント結果の評価.....	6-4
6.7	アンケート調査の結果と分析.....	6-4
6.8	ナショナルリストの策定計画.....	6-6
7	DBトレーニングキットの有効性検証.....	7-1
7.1	トレーニングキットの有効性.....	7-1
7.2	トレーニングキットの改良.....	7-1
8	提言.....	8-1
8.1	円借款プロジェクトへのDBの導入・普及体制に関わる提言.....	8-1
8.2	円借款プロジェクトにおけるアジュディケーター活用に向けた提言.....	8-4

【 図 表 】

表-1.1	調査団員リスト.....	1-2
表-2.1	VBIのFIDIC契約研修プログラム.....	2-2
表-4.1	フロリダ州交通局による工期遅延・コスト超過統計.....	4-1
表-6.1	アセスメントワークショップ参加者の年齢構成.....	6-2
表-6.2	アセスメントワークショップ参加者の業種・職種.....	6-2
表-6.3	アセスメントワークショップ参加者の専門性.....	6-2
表-8.1	DB運用促進対象案件.....	8-5

【 添 付 】

- 添付-2.1 Questionnaire on National List of Dispute Board Adjudicator
- 添付-2.2 FIDIC Member Associationとの協議日程
- 添付-2.3 FIDIC Member Associationにおける調査結果概要
- 添付-3.1 Questionnaire on Dispute Board in MDB Projects
- 添付-3.2 MDBおよびDRBFとの協議日程
- 添付-3.3 MDBからのアンケート回答骨子
- 添付-5.1 Application Form (DB Training Workshop/DB Assessment Workshop)
- 添付-5.2 プログラム (DBアジュディケーター・トレーニング・ワークショップ)
- 添付-5.3 トレーニング・ワークショップ修了証
- 添付-5.4.1 トレーニング・ワークショップに関わるアンケート調査結果 (1)
- 添付-5.4.2 トレーニング・ワークショップに関わるアンケート調査結果 (2)
- 添付-6.1 プログラム (DBアジュディケーター・アセスメントワークショップ)
- 添付-6.2 Overview Report of the Assessment Panel
- 添付-6.3 アセスメントワークショップ修了証
- 添付-6.4.1 アセスメントワークショップに関わるアンケート調査結果 (1)
- 添付-6.4.2 アセスメントワークショップに関わるアンケート調査結果 (2)

ワークショップ写真集

略 語 集

ADB	:	Asian Development Bank
ADR	:	Alternative Dispute Resolution
AJCE	:	Association of Japanese Consulting Engineers
APA	:	Assessment Panel for Adjudicators
ARIC	:	Asociatia Romana A Inginerilor Consultant (ルーマニアコンサルティングエンジニア協会)
AW	:	Assessment Workshop
CECOPHIL	:	Council of Engineering Consultants of the Philippines (フィリピンコンサルティングエンジニア協会)
DAB	:	Dispute Adjudication Board
DB	:	Dispute Board
DRB	:	Dispute Review Board
DRBF	:	Dispute Resolution Board Foundation
FIDIC	:	International Federation of Consulting Engineers
ICC	:	International Chamber of Commerce
IDB	:	Inter-American Development Bank
IFI	:	International Financing Institute
JICA	:	Japan International Cooperation Agency
MA	:	FIDIC Member Association
MDB	:	Multilateral Development Bank
SIDiR	:	Stowarzyszenie Inzynierow Doradcow I Rzeczoznawcow (ホーランドコンサルティングエンジニア協会)
TW	:	Training Workshop
VBI	:	Verband Beratebder Ingenieure (ドイツコンサルティングエンジニア協会)
WB	:	World Bank

第1章 調査業務概要

1.1 調査の背景

国際協力機構（JICA）では、調達業務の調和化の一環として土木工事の標準入札書類の改訂を2009年6月に行い、一般契約条件書として FIDIC（国際コンサルティング・エンジニア連盟）が MDB (Multilateral Development Bank) と共同で開発した「MDB 調和化版」を採用した。「MDB 調和化版」では、契約紛争の解決プロセスとして DB¹(Dispute Board)が新たに導入されている。

かかる状況下、円借款プロジェクトにおける DB の導入・普及に向けた準備の一環として JICA はこれまでに以下の調査を実施している。

- 1) 2008 年度：アジア地域における DAB・アジュディケーター育成計画の企画検討調査
 - DAB 普及に係る実態調査
 - DAB 普及セミナーの開催（日本、インド、フィリピン）
 - アジア版アジュディケーター育成の方策検討
- 2) 2009 年度：アジア地域における DAB・アジュディケーター導入・普及の企画検討調査
 - DAB 普及セミナーの開催（ベトナム、カンボジア、インドネシア、スリランカ、バングラディシュ）
 - アジュディケーター育成のためのトレーニング教材の作成
 - アジュディケーター資格審査に係る運用規定（案）の作成
 - DAB 導入・普及へのロードマップの作成

これらの調査を通して、円借款プロジェクトに DB の導入・普及をより確実に図るためには、以下の方策が有効であることが確認された。

- 1) アジュディケーター育成と資格審査について、先行している国の実態を調査すること。
- 2) JICA より早く DB を導入している MDB プロジェクトにおける運用状況を調査すること。
- 3) 円借款プロジェクトにおいて DB 導入のパイロットプロジェクトを実施すること。
- 4) 日本において JICA の支援によりアジュディケーター資格審査相当のワークショップ（アセスメントワークショップ）を開催すること。

本調査では、本格的な DB の導入・普及にむけた体制を整えるために、上記方策の 1)、2) および 4) の項目を実施する。

1.2 調査の目的

本調査は、円借款事業での DB の本格的な導入・普及にむけて、調査対象国における DB の普及実態、アジュディケーター育成体制の実態の調査・分析、マルチドナーにおける DB の運

¹ DAB (Dispute Adjudication Board)は FIDIC 1999 年版の各種契約条件書の中で使われている用語であるが、MDB 版では DB (Dispute Board)と変更された。DAB と DB の機能は同等である。本報告書においては、実施済みの内容で「DAB」が用いられている場合を除き、基本的に「DB」を用いる。

用状況の確認を行い、円借款プロジェクトへの導入・体制整備に向けた提言を策定するとともに、日本におけるアジュディケーター育成のためのトレーニング及び資格審査相当のアジュディケーターアセスメントワークショップを開催し、円借款プロジェクトにおける DB 導入・普及への体制整備を進める。

1.3 調査の体制

調査は、日本工営と日本コンサルティングエンジニア協会（AJCE）の共同企業体により実施され、以下の3名の団員が業務を担当した。

表-1.1 調査団員リスト

	担当	氏名	所属
1	業務主任／国際契約 (1)	林 幸伸	日本工営
2	国際契約 (2)	大本 俊彦	日本工営 (大本俊彦建設プロジェクトコンサルタント)
3	企画・調整監理	山下 佳彦	AJCE

また、アジュディケーター・トレーニングワークショップならびにアセスメントワークショップの実施に当たっては、以下4名の FIDIC President's List Adjudicator を FIDIC を通じて招聘した。

- 1) トレーニングワークショップ
 - Mr. Gordon Jaynes
 - Mr. Richad Appuhn
- 2) アセスメントワークショップ
 - Mr. Volker Jurowich
 - Dr. Sebastian Hök

1.4 調査の工程

調査は 2010 年 11 月から 2011 年 3 月の期間に実施した。調査における主なマイルストーンは以下の通りである。

- 1) 契約締結 : 2010 年 11 月 9 日
- 2) インセプションレポート提出 : 2010 年 11 月 12 日
- 3) 現地調査-I (ポーランド、ドイツ、ルーマニア) : 2010 年 11 月 15 日～11 月 24 日
- 4) アジュディケーター・トレーニングワークショップ : 2010 年 12 月 15 日～12 月 18 日
- 5) アジュディケーター・アセスメントワークショップ : 2010 年 12 月 20 日～12 月 22 日
- 6) 現地調査-I および II (フィリピン) : 2011 年 1 月 26 日～1 月 28 日
- 7) 現地調査-II および III (米国) : 2011 年 1 月 31 日～2 月 4 日
- 8) 調査報告書提出 : 2011 年 3 月 22 日

(注)

現地調査Ⅰ： アジュディケーター研修と資格審査に関わる先行事例調査

現地調査Ⅱ： MDBにおけるDB運用調査

現地調査Ⅲ： DRBFにおけるDB普及調査（本調査は特に米国におけるDRBの普及を確認するために追加調査として実施した）

第2章 現地調査 - I (アジュディケーター研修と資格審査に関わる先行事例調査)

2.1 現地調査の目的

FIDIC では、DAB を標準的な紛争解決のプロセスとして導入した 1999 年の 4 種類の契約条件書の発刊を機として、アジュディケーターの認定制度を運用している。FIDIC により認定されたアジュディケーターは、FIDIC President's List と呼ばれるリストで公表されている。FIDIC では概ね 3 年毎に資格審査を行い、現在 47 名のアジュディケーターが登録されている。

FIDIC は、増大するアジュディケーターの需要に対応するために、FIDIC President's List に加え各国の FIDIC メンバー協会 (FIDIC Member Association, MA) にアジュディケーターの National List の設置を勧奨し支援を行っている。FIDIC のウェブサイト¹によれば、現時点で National List を保有する FIDIC メンバー協会は、ドイツ、ハンガリー、フィリピン (準備中)、ポーランド、ルーマニア、南アフリカ、英国、である。

本調査では、今後のアジア地域におけるアジュディケーター育成と資格審査の運用の参考とすることを目的として、ドイツ、ポーランド、ルーマニア、フィリピンの 4 カ国を対象として、各国の実態を調査した。

2.2 調査内容

調査内容は、1) 協会の概要、2) National List、3) アジュディケーターの育成方法、4) 審査方法、5) 登録方法、の 5 項目とし、添付-2.1 の質問票を事前に以下の協会に送付し、現地における面談により結果を確認した。協議の日程ならびに参加者を添付-2.2 に示す。

- 1) ドイツ：VBI (ドイツ国コンサルタントエンジニア協会)
- 2) ポーランド：SIDiR (ポーランド国コンサルタントエンジニア協会)
- 3) ルーマニア：ARIC (ルーマニア国コンサルタントエンジニア協会)
- 4) フィリピン：CECOPHIL (フィリピン国コンサルタントエンジニア協会)

2.3 調査結果

2.3.1 総論

調査結果のサマリーを添付-2.3 に示す。

4 カ国の中では、ドイツの VBI がアジュディケーター審査を毎年定期的に行っている。また、審査を FIDIC 本部における審査と同様に 3 日間の審査ワークショップにより実施していることもドイツ協会の特徴である。審査は 3 名で編成される審査パネルで行っているが、その内の 2 名は FIDIC President's List Adjudicator であり強力な体制を確保している。また、研修制度については FIDIC の公認研修プロバイダーであるドイツの Nestar が包括的な研修プログラムを開発しており、このプログラムに従って毎年計画的に研修を行っている。

¹ <http://www1.fidic.org/resources/contracts/adjudicators/list.html>

今後、日本を含むアジア地域においてアジュディケーター審査を計画する際に、大変参考となる先行事例と認識される。

2.3.2 ドイツ

1) 協会の概要

ドイツの FIDIC MA である VBI は 1903 年に設立された歴史ある協会であり、会員企業数は 3,000 社で全従業員数は 45,000 名を誇る。

2) National List

2007 年から毎年資格審査を実施しており、現在 6 名のアジュディケーターが National List に登録されている。6 名の内、2 名は企業に所属しているが残りの 4 名は個人コンサルタントである。6 名のアジュディケーターの平均年齢は 55 歳（最年少：46 歳、最年長：69 歳）であり、技術者が 5 名、法律家が 1 名という内訳である。

ドイツ国内の公共工事には FIDIC 契約約款は使われておらず、紛争解決のプロセスとして DB は採用されていない。また、KfW 等の援助プロジェクトにおいても FIDIC 契約約款は使われていない。従って、アジュディケーターの国内需要は一部の大型民間案件のみであり、登録されたアジュディケーターはドイツ国外の国際プロジェクトで活躍することが期待されている。

3) アジュディケーターの育成方法

VBI では FIDIC 契約書に関わる以下の研修プログラムを FIDIC の公式研修プロバイダーである Nestor Bildungsinstitut に委託して実施している。

表-2.1 VBI の FIDIC 契約研修プログラム

コース名	概要	期間	受講料
基礎コース	契約条件書の概念と使用法	1 日間	675 Euro
メインコース	FIDIC Red Book と Yellow Book の使用に関わる基礎知識	2 日間	1,450 Euro
集中コース 1	クレームと紛争	2 日間	1,550 Euro
集中コース 2	アジュディケーター審査のための準備研修	2 日間	1,550 Euro
専門コース	実務者のための FIDIC 契約書	2 日間	1,550 Euro

(出所：VBI 資料)

これらのコースは 3 月から 11 月にかけて毎年 1 回開催しており、講義は英語とドイツ語を混在して行っている。メインコースと集中コース 1 は毎年 30 名以上の参加があり、集中コース 2 は 15~20 名程度が参加している。

4) 審査方法

VBI では、2007 年より毎年 3 日間の審査ワークショップを実施している。審査を受けるためには、事前研修としてメインコースと集中コース 1 及び 2 の履修を条件としている。その他の要件は特に設けていない。受審者の資格や経験年数は、審査通過後のリスティングの段階でチェックする。審査ワークショップの概要は以下の通りとなっており、参加費用は 2,625 Euro である。

1 日目：筆記試験、宿題としてケーススタディーに基づく「裁定」のドラフト

2 日目：「裁定」に基づくディスカッション

3 日目：2 日目と同様

審査ワークショップは、アジュディケーターの登録だけではなく、教育訓練の場としての役割も持たせている。

審査は 3 名の審査員により構成される審査パネルが行い、各審査員は受験者それぞれの採点を行い、最終的に合議で合否を決定する。

これまでに約 30 名が審査ワークショップを受審し、合格率は約 8 割である。現時点で、6 名のアジュディケーターが VBI の National List に登録されているが、登録者数が合格者数に比べて少ない理由は、現在企業に勤めている、未だ実務経験年数が少ない、などの理由により合格者であっても登録申請を行わない人がいることによる。

5) 登録方法

National List への登録の要件は以下の通りである。

- (1) 審査ワークショップを通過したこと。
- (2) CV（英語と独語）の提出。
- (3) 少なくとも 5 年間の適正な学業または専門家としての技術者資格又は相当の資格。
- (4) 少なくとも 5 年間の principal engineer（又はそれ相当）としての実績。又は、契約管理分野の法務アドバイザー
- (5) 雇用人の場合は就業証明の提出。
- (6) 上記要件の欠如については審査最終段階で考慮できる。

VBI の会員はコンサルタントであることが要件となっていることもあり（法律家やコントラクターは会員とはなりえない）、VBI 会員であることをアジュディケーター登録要件とはしていない。また、国籍はドイツに限定していない。

リストの更新は 2 年毎に行い、過去 2 年間の間に adjudicator, arbitrator, mediator として少なくとも 1 回は国際プロジェクトにおいて活動することを更新要件としている。但し、この要件は研修に参加することで代替可能である。

National List への登録費用は、新規登録では 350 Euro (会員は 250 Euro)、更新登録では 150 Euro (会員は 100 Euro)としている。

尚、VBI ではアジュディケーターの推薦や指名は行っておらず、アジュディケーターの選定はあくまで雇用者の判断に委ねている。

2.3.3 ポーランド

1) 協会の概要

ポーランドの FIDIC MA である SIDiR は 1994 年に設立された。会員企業数は 25 社で、会員数は 878 名であるがこの内 300 名は個人会員である。

2) National List

1999 年に最初のアジュディケーターが National List に登録され、現在では 32 名のアジュディケーターが登録されている。32 名の専門性は、27 名がエンジニア、4 名が法律家、1 名がエコノミストであり、全員が自営の個人コンサルタント又は法律家である。SIDiR としては、企業に所属する従業員は独立性や中立性の観点から、アジュディケーターとしてはふさわしくないと認識している。現時点で、十分な数のアジュディケーターが登録されているので、今後 2 年間は新規の登録を行わない予定である。

ポーランドでは、2004 年に EU に加盟後世界銀行や欧州開発銀行の支援によるインフラプロジェクトが急増し、また現在では国内の公共工事においても FIDIC 契約約款が使用されていることから、国内におけるアジュディケーターの需要が大きい。

プロジェクトの増加に伴い建設紛争の発生も増えており、SIDiR の記録ではこれまでに 85 件の紛争解決にアジュディケーターが関与している。但し、ポーランドの発注者は Dispute Board の有利性を理解してはいるが、積極的に賛同しているとは言い難い。DB の形態は、3 人制、ad-hoc が多い。

3) アジュディケーターの育成方法

SIDiR が提供している契約管理に関わる研修は、1) セミナー、2) conference (年 2 回)、3) Class of lecture の 3 つの形態がある。セミナーは FIDIC 契約の一般的な教育や調達に関わるテーマで年 2-3 回実施している。Class of lecture は少人数で、経験者を招聘し個別の契約課題をケーススタディーとして議論をする場であり、必要に応じて実施している。アジュディケーター候補の研修は 3) が主体である。その他に会報を隔月で発行 (2000 部) しており、その内容は契約や紛争に関わるものも多く、教育の機会となっている。

4) 審査方法

SIDiR では審査パネルによるアジュディケーターの資格審査は実施していない。申請に応じて理事会で合議して登録を決めている。必要に応じて、詳細の確認をしたり、また面接を行うこともある。

5) 登録方法

National List への登録の要件は以下の通りである。

- (1) 2 件以上の大規模プロジェクト（5 百万 Euro 以上）における専門家としての実務経験 10 年以上
- (2) 施工監理エンジニアとしてのコンサルタント業務経験 2 年以上
- (3) SIDiR 会員実績 3 年以上
- (4) 仲裁人または仲裁廷における実務者を対象とする研修 3 回以上
- (5) SIDiR 会員である 2 名のアジュディケーターからの推薦

National List への登録費用は無料としている。

尚、SIDiR では要望に応じてアジュディケーターの指名を引き受けている。また、SIDiR では標準的なアジュディケーター報酬を定めており、チェアマンについては 1,000 米ドル/日、その他のメンバーについては 800 米ドル/日となっている。

2.3.4 ルーマニア

1) 協会の概要

ルーマニアの FIDIC MA である ARIC は 1999 年に設立されており、会員企業数は 31 社で会員数は約 4,000 名である。大学教授以外の個人会員は認めていない。

2) National List

現在、2008 年に認定した 11 名のアジュディケーターが National List に登録されている。専門性としては 11 名の内 8 名がエンジニア、3 名が弁護士である。エンジニアの内 7 名がコンサルタント企業に、1 名が建設会社に所属している。

ルーマニアでは 2007 年の EU 加盟後、国内で EBRD などによる援助プロジェクトが増加し、これらプロジェクトでは FIDIC 契約が用いられているためアジュディケーターの需要が増加した。更に、ルーマニアの自己資金公共事業においても 2008 年から FIDIC 契約約款が導入された但し、2010 年 3 月から FIDIC 契約約款の使用は強制的なものでは無くなり、実施機関の選択に委ねられるようになってきている。ARIC が 2008 年にナショナルリストを設立したのは、これらアジュディケーターの国内需要に応えるためである。

3) アジュディケーターの育成方法

ARIC では、2006 年から 2 年間に亘り、アジュディケーター養成のためのトレーニングを実施した。トレーニングは、毎週金曜日にアジュディケーター候補者を集め、午後 4 時から 7 時まで勉強会（ワークショップ）の形式で実施した。ルーマニア仲裁協会の仲裁人なども指導員として招聘した。

トレーニングは 2 段階で実施し、毎回 6～9 名が参加した。

第一段階（14 か月）： FIDIC 契約の理解と FIDIC 契約におけるアジュディケーションの仕組みの学習

第二段階（8 か月）： ケーススタディー

4) 審査と登録の方法

前述の2年間のトレーニングを通して、アジュディケーターとしての資質を見極め、最終的に11名をアジュディケーターとして認定・登録した。従って、個別の審査ワークショップは行っていない。アジュディケーターの認定は、ARIC 会長と DRBF ルーマニア代表の2名により実施した。

定期的な再審査やリストの更新は現時点では予定していない。アジュディケーター本人から辞退の申し出があった場合にはリストから抹消する。

ARIC ではアジュディケーターの指名や推薦は行っていない。

2.3.5 フィリピン

1) 協会の概要

フィリピンの FIDIC MA である CECOPHIL は、その前身の CECOP が9つのコンサルタント会社により1976年に設立された。その後 CECOPHIL として発展し、現在23社の正会員企業と3社の賛助会員企業が登録している。

2) National List

CECOPHIL では、National List を設置すべく検討を始めたところであり、未だ National List は設置していない。

フィリピンの国内公共事業の紛争解決プロセスには adjudication は採用されていない。ODA 事業や一部の民間事業では FIDIC 契約書が採用されており、契約上は adjudication が紛争解決の手段となっているプロジェクトはあるが、実際に Dispute Board が設置されている例は少ないと思われる。

3) アジュディケーターの育成方法

CECOPHIL では、FIDIC 契約書の研修・教育機会を提供するために、これまで Module 1 (Practical Use of the FIDIC Conditions of Contracts) と Module 2 (The Management of Claims and Dispute Resolution) のワークショップを2005年から2年に一回のペースで実施している。其々2日間のコースであり、講師は主にヨーロッパから契約専門家を招聘している。参加費は約2万ペソであり、80名程度の参加者がある。

Adjudicator に関連する Module 3 (Dispute Adjudicator Boards) はこれまで実施していないが、CECOPHIL では今年中には実施したいと考えている。

第3章 現地調査 - II (MDB における DB 運用調査)

3.1 現地調査の目的

MDB では JICA より早く、2005 年より土木工事用の標準入札書類 (Procurement of Works) に FIDIC MDB Harmonized Edition を採用している。MDB が融資を行っているプロジェクトにおいて、アジュディケーターが有効に運用されているか、また運用上の課題は何であるかを把握し、今後の円借款プロジェクトにおけるアジュディケーター活用の参考とすることを目的に調査を行った。

3.2 調査内容

調査内容は、以下の 7 項目とし、添付-3.1 の質問票を事前にアジア開発銀行、世界銀行、米州開発銀行の調達管理部局に送付し、本部における面談により結果を確認した。協議の日程ならびに参加者を添付-3.2 に示す。

- 1) DB 導入に関わるポリシー
- 2) 建設契約における DB 導入の実態
- 3) DB 導入による効果
- 4) DB 導入における問題点と課題
- 5) DB 経費のディスバースメントの方法
- 6) アジュディケーターの育成に関わる活動
- 7) 選定された DB メンバーのリソース

3.3 調査結果

3.3.1 総論

質問票に対する回答を添付-3.3 に示す。

調査の結果には多くの共通点がみられ、以下の通り要約される。

- 土木工事およびプラント用の標準入札書類 (Works、Plant) が使用される場合は、DB の設置は強制的である。但し、DB の実際の設置状況は把握されていない。また、銀行として設置を促すことはしていない。
- 契約における DB の採用が未だ新しいこともあり、実施機関が DB の便益を十分に理解しているとは思われない。従って、概して実施機関は DB の導入に積極的ではない。
- 契約紛争については、あくまで契約当事者間の問題であり、積極的に関与する立場は取っていない。
- DB コストをローンで賄って良い、とする規定は存在しない。しかしながら、ローンによる支出を拒否するものではなく、運用上ではローンで賄われている事例がある。

また、JICA がこれまでに実施してきた、DB の普及と育成に関わる活動については、全ての融資機関が大きな関心と評価を表明した。

3.3.2 アジア開発銀行（ADB）

アジアにおける DB 普及の障壁は、西欧起源のコンセプトであること (western centric concept)、借入国にとってコスト負担が大きいことにある。しかしながら、他に有効な代替案はなく、ADB としては DB をサポートする立場にある

ADB では、土木工事用に Works (FIDIC MDB 使用)と Works for Smaller Contract の 2 種類の標準契約書を用意している。工事の複雑性にもよるが、概ね 1000 万ドル以上の契約に Works が用いられる。事業費が 3000 万ドルを超えるプロジェクトは 30~50 あり、また 1 億ドルを超えるプロジェクトも 10~15 あるので、FIDIC MDB が使用される契約も増えているが、実際に DB が設置された例はあまり多くはないのではないと思われる。DB の形態は ad-hoc が多く、また standing であってもその設置が引き延ばされるケースが多いとみられる。実施機関にとってはコスト負担が課題となっていると思われる。

発注者負担分の DB コストをローンで賄うことを妨げる規定はない。但し、ローンによる支出を明確に認めているともいえない。発注者負担分の DB コストが BQ の支払項目として Provisional Sum で計上されることに異を唱えるものではない。

実際の紛争について ADB がその解決のために仲介することはない。クレームや紛争はあくまで契約当事者間の問題であり、距離を置いている。また、対応するための十分なリソースが内部に不足しているという事実もある。

FIDIC の勧奨に従ってナショナルリストを作ることが可能でなくとも適格なアジュディケーターを一定数プールしておく必要はある。

今回の会議で、JICA が Dispute Board の普及と育成に関わる活動を行ってきたことを知ったが、今後、共同してこれらの活動を継続してゆくことも考えられる。

3.3.3 世界銀行（WB）

WB は契約当事者ではないので、建設契約後のクレームや紛争について基本的にモニターしたり介入する立場にはない。従って、DB の設置状況や活動状況については把握していない。

WB プロジェクトにおける、年間契約数は 22,000 件（コンサルタント契約を含む）に上ることもあり、建設契約について契約金額規模別の統計は存在しないと思われる。

DB のベネフィットについては、プロジェクトの進捗遅延の防止と紛争の早期解決にあると承知している。また、援助国側は、概して DB のことはよく知らず、そのベネフィットを十分には認知していないと思われる。

DB コストのローン上のエリジビリティについては、現状ではエリジブルであるというガイ

ドナインによる規定はないので、明解にエリジブルであると言えない。しかしながら、DB コストがローンにより支払われている事例は存在する。タスクマネージャーの裁量次第とも言える。

3.3.4 米州開発銀行 (IDB)

IDB は契約当事者ではないので、建設契約後のクレームや紛争について積極的に関与する立場にはない。

IDB 及び借款供与国にとっても DB は全く新しいプロセスであり、現状では実績も極めて少ないと考えられる。

契約書に Works が用いられる場合には、Dispute Board のプロセスを削除したりすることは許容されない。但し、国によっては ADR が法律上認められていないケースもあり、この場合は法律に準拠することになる。

IDB では現在 600 件のプロジェクトを有するが、建設契約について契約金額規模別の統計は存在しないと思われる。

IDB の調達ポリシーにおいて、DB コストが借款の対象となるという規定はないが、実際には借款でカバーすることも可能であると思われる。

第4章 現地調査 - III (Dispute Resolution Board Foundation)

4.1 現地調査の目的

Dispute Resolution Board Foundation (DRBF)は、1996年に DRB (Dispute Review Board)の創設者により設立された Dispute Boards (DB)のサポートとプロモーションを行う NPO である。本部は米国シアトルにあり、現在 59 カ国に約 700 名の会員を有する。

DRBF は、FIDIC と並ぶ DB の推進団体であるため、DRBF の活動状況および DB の主として米国における普及状況を確認するためにヒアリングによる調査を行った。

協議の日程ならびに参加者を添付-3.2 に示す。

4.2 調査結果

DRBF は、組織構成として Region 1 (米国地域) と Region 2 (米国以外の地域) の二つに分かれている。2012年にオセアニアおよびアジアを領域とする Region 3 を設置する計画がある。

米国では、紛争に対して裁定 (decision) ではなく勧告 (recommendation) を与える Dispute Review Board (DRB)の普及が図られており、現在数多くの建設契約において DRB が採用されるようになってきている。DRBF の最新版データベース (2010 年末更新) には 2,191 件の DB が用いられた契約が登録されており、その内 2,033 件が米国の事例である。

米国においても、DB の大きな利点として紛争の回避機能が認識・評価されている。従って、基本的には全てが常設 DRB である。紛争回避は、サイトビジットにおける advisory opinion などにより、契約当事者間の合意形成を助長することにより達成されている。

DRB による紛争回避機能および早期紛争解決機能により、プロジェクトの工期遅延やコストオーバーランが抑制されることが経験されている。フロリダ州の交通局における建設契約の年間統計は以下の通りであり、DRB の効果が顕著に表れている。

表-4.1 フロリダ州交通局による工期遅延・コスト超過統計

契約形態	契約数	工期遅延	コスト超過
DRB 有り	15	1.84%	12.12%
DRB 無し	60	19.10%	17.89%

(出所：DRBF 資料)

また、紛争が DRB の勧告により解決し、仲裁や裁判に発展しないケースは 98%に上り、DRB の紛争解決機能の高さの裏付けとなっている。

米国では、ボードメンバーに対する retainer fee は無く、全て稼働ベースで報酬が支払われる。報酬日額は 1,500~3,000 米ドルが一般的である。

DRB への支払は、先ずコントラクターが 100%を支払い、50%を発注者に請求し、発注者は建設契約の Provisional Sum からコントラクターに支払う方法が一般的である。

DRBFは米国内でDBの普及および研修のための Training Workshop を行っている。米国の特定の発注者向けのテーラーメイドの研修も提供している。海外での研修は年一度開催される DRBF 国際会議において2日間の Training Workshop を開いている。

発注者にDBの利点を理解させる方法については、DBを取り入れたパイロットプロジェクトの試行は発注者がDBのベネフィットを実感する機会になるのではないかとの見解を得た。

第5章 アジュディケーター・トレーニングワークショップ

5.1 トレーニング・ワークショップの目的

DB アジュディケーター・トレーニングワークショップ（以下、トレーニング・ワークショップ）は以下の3項目を目的として実施した。

- 1) 平成22年度 JICA 調査「アジア地域における DAB・アジュディケーター導入・普及のための企画検討調査」において開発された「DB トレーニングキット」の有効性を検証すること。
- 2) 本調査において実施されるアジュディケーター・アセスメントワークショップの受審者のための研修機会を提供すること。

（注） 2009年度の JICA 調査報告書では、アジュディケーター・アセスメントワークショップへの参加要件として、i) FIDIC 契約研修の Module-1 & 2、ならびに ii) アジュディケーター・トレーニングワークショップの二つの研修の修了を推奨している。本調査におけるアセスメントワークショップの受審者のうち、Module-1 & 2 セミナーを受講していない方々は、JICA 調査「国際契約マネジメントセミナー（広域）」において2010年11月29日から12月3日にかけて東京で実施された Module-1 & 2 を受講することで、参加要件を満たした。

- 3) 日本国内におけるアジュディケーター育成の課題把握を行うため。

5.2 トレーナーの選定

トレーニング・ワークショップは、調査団員の大本教授に加えて、FIDIC President's List に登録されている紛争解決実務経験の豊かな下記2名のアジュディケーターを FIDIC を通して招聘し、合計3名のトレーナーにより実施した。

1) Mr. Gordon Jaynes（英国在住）

ジェーンズ氏は、米国人の建設弁護士として40年以上の経験を持つ。同氏は、発注者、コンサルタント、ゼネコン、サブコン、エンジニアリング会社等の建設関係者に対するアドバイザー業務、並びに仲裁における代理人、仲裁人、DB アジュディケーターなど幅広い実務経験を有する国際建設契約・紛争解決の領域における世界的第一人者である。特に中立・公正を要求される neutral な業務において実力を発揮し、仲裁人、DB アジュディケーターとしての指名が数多くなされてきた。

また、同氏は FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicator の審査員をこの制度の設立当時から務めており、これまで6回の Assessment Workshop を実施し、その都度改善してきた経験を有している。

さらに同氏は、2009年度 JICA 調査「アジア地域における DAB・アジュディケーター導入・普及の企画検討調査」において調査団員として「DB トレーニングキット」の作成に

携わっている。

2) Mr. Richad Appuhn (イタリア在住)

アプン氏は、土木技術者として 40 年以上の経験を持つ。米国で土木、地質学を修め、プロフェッショナル・エンジニア、工学地質エンジニアとして登録されている。米国、南アフリカ、イタリア等でコンサルタント、コントラクターに勤め国際工事に多くかかわる。2000 年から独立し、主に建設紛争のコンサルタントを務め、DB アジュディケーターとして数々のプロジェクトに指名されている。DRBF では DB アジュディケーターのトレーニング担当役員を務め、FIDIC の公認トレーナーに認定されている。DB アジュディケーター・トレーニングの専門家である。

5.3 受講者の募集

1) 募集方法

受講者は建設プロジェクトの経験を有し、建設契約(特に FIDIC 契約約款による契約)の経験が豊富であることが基本要件であるため、海外建設プロジェクトと建設契約に知見を有する(社)海外建設協会(OCAJI)及び AJCE に候補者の推薦を依頼した。

候補者の推薦は平成 22 年 11 月初旬に依頼し、11 月中旬に OCAJI から 9 名、AJCE から 10 名、計 19 名の推薦を受けた。

2) 受講者の応募要件

調査団は FIDIC ナショナルリストガイドラインに準拠して受講者募集を行った。また、受講者にはトレーニング・ワークショップに続くアセスメントワークショップにも参加することを前提に以下の応募要件を設定した。

① 学歴:

建設プロジェクトに関連する土木・建築・電気・機械などの工学および法学・経済学などの専門学歴を有すること。

② 職業上の資格

適切な職業上の資格を有していること(技術士、1 級建築士、土木学会認定技術者資格上級、1 級土木施工管理技士、FCI Arb¹、弁護士など)。但し、企業内法務経験者等は、建設契約の経験が豊富であれば有資格者とみなす。

③ 職歴

建設コンサルタントや建設企業等において責任ある立場で 10 年以上の業務経験を有すること。但し、弁護士についてはその限りではない。

④ 特別な経験

i) 国際建設工事の経験(工事経験、コンサルティング、契約アドバイスなどのいずれ

¹ FCI Arb : Fellow, Chartered Institute of Arbitrators, UK

かでよい) を有すること。

ii) FIDIC 契約条件書を用いた経験を有すること。

iii) 契約紛争解決の経験 (仲裁人や調停人等の中立者、FIDIC 契約におけるエンジニア、コンサルタント、紛争当事者のいずれかでよい) を有すること。

⑤ 英語に堪能であり、簡潔で的を射た文章が書けること。

⑥ FIDIC が骨子を定めている契約研修プログラムである Modules 1 および Modules 2 を修了していること。

- Module 1: Practical use of the FIDIC Conditions of Contracts
- Module 2: The management of claims and dispute resolution procedures

3) 申請書類

トレーニング・ワークショップを受講する申請者は、アセスメントワークショップの受講も併せ、以下の申請書類を指定期日までに AJCE 事務局に電子媒体にて提出するものとした (但し、申請書と推薦状は署名のある原本を別途提出)。申請書類は、邦文の証明書等で英語による提出ができないものを除き、すべて英語で記述するものとした。

- ① トレーニング・ワークショップ及びアセスメントワークショップ受講申請書 (添付 5.1)
- ② 経歴書 (様式は自由)
- ③ デジタル顔写真
- ④ 推薦状 (2 通)
- ⑤ 学歴に関わる証明書
- ⑥ 資格に関わる証明書
- ⑦ FIDIC 契約研修プログラム Modules 1 および Modules 2 の修了証
- ⑧ その他、上記「受講者の応募要件」を裏付ける証明書

4) 受講者の選定

調査団は全候補者に、2) 申請書類 に示す書類の提出を依頼し、平成 22 年 12 月上旬に全ての書類(電子データ)を受理した。但し、2 通の推薦状と申請書の原本は郵送に時間を有するため、提出期限を延長した。

申請書類は書類審査のため、トレーニング・ワークショップとアセスメントワークショップのトレーナーに送付し、トレーニング・ワークショップの開始前に申請者全員が応募要件を満たすことを確認した。

提出書類に関する主な課題は以下のとおりであった。今後の応募書類作成に反映させることが望ましい。

① 経歴書 (CV)

経歴書には、建設プロジェクトでの契約、紛争解決、プロジェクト管理、応募者の役割等

の経験を明確に記載する必要があるが、淡々と年代順に関わったプロジェクトを記述しているケースが散見された。

② 推薦状

推薦状は、透明性の観点から異なる組織から入手する必要がある。今回はこの点を明記しなかったため、所属する組織や、外部であっても同じ組織から2通の推薦状を入手した応募者が多く見られた。これには、紛争解決やプロジェクト管理について応募者の実績を証明できる推薦者が限定されていたことも一因と思われる。

5.4 トレーニング・ワークショップの内容

トレーニング・ワークショップは、添付-5.2 のプログラムに基づき 2010 年 12 月 15 日から 12 月 18 日までの4日間で実施された。

トレーニング・ワークショップはトレーニング・キットを用いた講義、トレーナーが作成したシナリオに基づくケース・スタディー、ならびに模擬 DB ヒアリングにおけるロールプレーにより構成した。

1) 講義

トレーニング・キットに含まれるパワーポイント・プレゼンテーション・スライドを用いて、3人のトレーナーが交代で講義を行った。講義中は頻繁に質問を投げかけ、受講者の理解度を確認しながら講義を進めた。講義は概ね以下の項目から構成された。

- DB の特徴（仲裁を回避する努力）
- DB の種類（常設、アド・ホック）
- DB メンバーの選択（資格、DB にかかるコスト）
- DB の運営（現場訪問、非公式見解の提供、正式な紛争の DB 付託、ヒアリング、裁定）
- DB メンバーへの報酬の支払い
- 裁定が出された後の手続き（和解の努力、仲裁）
- DB の機能終了

後節で述べるアンケート調査結果に見られるように、トレーニング・キット自体、ならびにキットを使用した講義内容の双方とも適切なものであったと受講者は評価している。

2) ホームワークによるケース・スタディー

トレーニング・キットの「Attachment - 14 Hypothetical Case」に基づき、DB プロセスの様々な局面で DB メンバーとしてあるいはチェアマンとしてどのように対処すべきかを課題とした。さらに、クレーム・シナリオに基づき受講者に裁定を書く（decision writing）練習も課した。

- 1 日目のホームワーク課題
 - 当事者の一方が非協力的なときの DB の設置法
 - DB のコスト算定法

- 2日目のホームワーク課題
 - 現場訪問の際に留意すべき事項、非公式見解はどのような条件が整えば提示してよいか等の課題
 - 現場訪問報告書の書き方
 - 定常的な情報伝達手法
 - 付託と時間制限、正式な付託、ヒアリング

3) 模擬ヒアリング (Mock DB Hearing)

準備されたシナリオを使用して、模擬ヒアリングを行った。題材は水力発電所建設における、工事遅延クレームに関わる DB の運営方法に関するケース・スタディーである。聴講者のロール・プレーに先立って3名のトレーナーが模範模擬ヒアリングを示した。ロール・プレーは以下の手順で実施した。まず、3名ずつ(1チームは4名)のメンバーからなる6チームを編成した。1つのクレーム事例を取り上げ、DB、発注者、コントラクターを演じるロール・プレーを行った。1プレーは約30分とし、すべてのチームが上記3者の役割を交代で演じた。プレーの最中にトレーナーから DB の振舞い、議事の進め方等に関して、指導を行った。DB の未経験者であってもこの演習によりヒアリングの手法を習得させた。

最終日に、受講者に対してワークショップ修了証書(添付-5.3)が授与された。

5.5 アンケート調査の結果と分析

アンケート調査では以下の項目について質問を行った。

- トレーニング・ワークショップを受講した動機等
- トレーニングの内容とトレーニング・キットの評価
- DB アジュディケーターに指名されたら今すぐに応じることが出来るか
- トレーニング・キットの改善提案
- トレーニング・ワークショップの改善提案

アンケートの回答結果は、添付-5.4.1 および添付-5.4.2 に示すとおりであり、以下の通り整理・分析される。

1) トレーニング・ワークショップを受講した動機等

- 動機について

自由記述回答により19名の受講者から21項目の回答を得た。6名がDB及び紛争解決一般について学ぶためと回答した。15名がDB アジュディケーターになるためと答えている。約80%の受講者がアジュディケーターになりたいとの明確な目的を持って受講しており、ワークショップの目的が達成されていると考えられる。アジュディケーターになりたいと回答した受講者の内1名は、将来日本でDBが普及しアジュディケーターを必要とするようになるからという興味ある観測をしている。

- 受講料について

このようなセミナーやワークショップはヨーロッパにおいて 2 日コースで 15～20 万円、4～5 日コースで 30 万円程度の受講料を徴収し、かつ参加者が集まる。また、受講料は企業負担ではなく、個人が負担することが多いといわれている。そこで今回のトレーニング・ワークショップが有料の場合、いくらであれば負担するつもりがあるかを尋ねた。30 万円であれば負担するかとの問いに 5 人が同意、13 名が否定、1 名が無回答であった。金額の範囲は以下の通りである。

- ◇ 3 万円： 2 人
- ◇ 10 万円： 5 人
- ◇ 15 万円： 2 人
- ◇ 20 万円： 2 人
- ◇ 30 万円： 5 人

個人負担が相当に高額でも、このようなワークショップを受講する覚悟のあるプロフェッショナルが存在することを示しており、DB アジュディケーターが新しい職業として魅力があると判断されているようである。今後の持続的な National List の拡充と維持にとって好ましい傾向といえる。

- FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicators に応募する意思があるか？

19 名の内、15 名が応募の意思を表明した。その内の 9 名はこの権威ある資格を得て国際建設産業に貢献したいと考えている。2 名は応募の意思はあるが、更に教育・訓練を積む必要があると考えている。今後日本の National List のみならず、FIDIC President's List に複数の日本人が登録されることが期待される。

2) トレーニングの内容とトレーニング・キットに対する評価

- キットは自習用に役立つか？

受講者全員が役立つと考えている。

- キットを用いたトレーニングは有効であったか？

無回答の 1 人を除く全員が有効であったと評価している。

- トレーニング・ワークショップは DB アジュディケーターの訓練だけではなく、DB のユーザー（発注者、コントラクター、エンジニア等）の教育に有効と考えるか？

大多数の 16 人が DB ユーザー教育に有効であると答えている。

- 本トレーニング・ワークショップの難易度は高かったか？

7 名が難しかった、また 12 名が難しくはなかったと答えている。難しかったポイントは様々であり、英語を聞き取ること、読む材料が多いこと、FIDIC MDB 版に未だ精通していないこと、などがあげられている。これらはまさに各個人の今後の課題であろう。睡眠不足により集中力を欠くことがあったとの陳述もあったが、実際の裁定ではこのような状況に遭遇することが多く、これに対処できるようにプログラムが設計

されている。

- 本トレーニングの後、DBメンバーを務める自信が出来たか？
14名が、自信がついたと答えている。5名は今後更なる教育・訓練や実地経験が必要であると答えている。本トレーニングの有効性が確認されたものと考えられる。

3) DB アジュディケーターに指名されたと仮定し、今すぐに応じることが出来るか？

受講者の約半数の9人が、指名を受けたら直ちに引き受けることが可能と答えている。残りの10人は直ちには引き受けられないと答えているが、その理由は押しなべて、現在会社に勤務しているから、というものであった。但し、1～2年の間には受けられるようになるとも答えている人もいる。

4) トレーニング・キットの改善提案

トレーニング・キットは全体として良い教材と評価されている。

- 2人はこのままで十分良い教材であると評価している。
- 関連契約条項の番号を入れること、目次を教材の最初に設けることなどの具体的な改善提案がある。今後の改善に役立つ提案である。
- DB プロセスだけではなく、プロジェクトマネジメントと絡めて扱う教材にしてはどうかとの提案がある。4～5日間のプログラムでそのような幅広い内容が扱えるかどうか疑問であるが、検討の余地はある。
- かなり多くの受講者が、より多くのケース・スタディーを掲載することを要望している。しかし、実際にワークショップに携わるトレーナーが自身で作成したものを使うことに大きな意味がある。

5) トレーニング・ワークショップの改善提案

ホームワークの量に関する改善案がかなり多かった。他にはプログラム全体の期間を1日長くすること、模擬DBヒアリングを充実させることの要望があった。

- ホームワーク量の軽減
この要望はワークショップの実施中から出ていた。しかし、他の国で行われるワークショップでも同じであり、これはまさしく実際のアセスメントワークショップへの備えであり、変更の余地はないと思われる。
- ワorkshop期間の延長
本トレーニング・キットを作成した時点では5日間のコースとして設計されていた。今回は4日間の集中講義で実施したが、今後は、多少のゆとりを持たせ5日間で実施することが推奨される。
- 模擬DBヒアリング
上記に関連するが、もう少し時間を割いたほうがよいと思われる。かつ、トレーナーの参加も考慮すべきである。

第 6 章 アジュディケーター・アセスメントワークショップ

6.1 アセスメントワークショップの目的

DB アジュディケーター・アセスメントワークショップは以下の 2 項目を目的として実施された。

- DB トレーニング・ワークショップに引続き本アセスメントを実施し、トレーニング・キットの有効性を二重に検証すること。
- 日本におけるアジュディケーター・ナショナルリストの設置を検討している日本コンサルティング・エンジニア協会 (AJCE) に、アセスメントの結果を参考情報として提供すること。

6.2 アセスメントパネルの設置

調査団員である大本教授に加えて、FIDIC President's List に登録されている紛争解決実務経験の豊かな下記 2 名のアジュディケーターを FIDIC を通して招聘し、合計 3 名よりなるアセスメントパネルによりアセスメントワークショップを実施した。アセスメントパネルは、ジュロビッチ氏を議長とした。

1) Mr. Volker Jurowich (ドイツ在住)

ジュロビッチ氏は、1969 年にドイツの工業大学の土木学部を卒業後、ドイツの大手ゼネコンであるズブリン社に入社。以後、2003 年に同社の役員を辞めるまで同社に勤務する。同社では設計業務も経験しているが、特にダム施工の専門家である。仲裁などの紛争解決の経験が豊富で、独立してからは DB のメンバーにたびたび指名されている。FIDIC 公認の DB トレーナーである。また、DRBF の次期会長候補者でもある。

2) Mr. Sebastian Hök (ドイツ在住)

ホック氏は、ドイツの弁護士事務所のパートナーであり、ベルリン科学技術大学で教鞭もとっている。仲裁法や建設法の専門家で、国際建設紛争解決の経験が非常に豊富である。FIDIC 公認の DB トレーナーである。

6.3 書類審査の実施と結果

5.3 章 3) 項に示される申請書類に基づき、19 名の受審者の応募要件への適合性がトレーニング・ワークショップのトレーナーおよびアセスメント・ワークショップの審査員の 5 名により確認された。結果として、19 名全員が応募要件を満たしていることが確認された。

受審者の属性は以下の通りであった。

1) 年齢

年齢は 40 歳から 71 歳と幅広いが、ほとんどの方が 55 歳以上であり平均は 59.8 歳である。

今後 National List に登録され、実際にアジュディケーターとして指名された場合に、これを引き受ける可能性が高いと考えられる。

表-6.1 アセスメントワークショップ参加者の年齢構成

年齢	人数
40 歳～49 歳	3 名
50 歳～59 歳	4 名
60～69 歳	11 名
70 歳以上	1 名
平均： 59.8 歳	計 19 名

2) 業種・職種

11 名がコンサルタント業（コンサルタント企業勤務、個人コンサルタント）に携わっている。但し、この中には、コントラクター出身者も多い。また、全員が海外における業務経験が豊富である。

表-6.2 アセスメントワークショップ参加者の業種・職種

業種・職種	人数
コンサルタント企業勤務	9 名
個人コンサルタント	2 名
コントラクター	6 名
法律事務所	1 名
教育機関	1 名
合計	計 19 名

3) 専門性

14 名が土木技術をバックグラウンドとする技術者である。

表-6.3 アセスメントワークショップ参加者の専門性

専門性	人数
土木技術	14 名
社内法務	3 名
経済	1 名
法律	1 名
合計	計 19 名

6.4 アセスメントの方法

アセスメントワークショップは、添付-6.1 のプログラムに基づき 2010 年 12 月 20 日から 12 月 22 日までの 3 日間で実施された。

以下の5つの手法により、アジュディケーターに求められる FIDIC MDB Harmonized Edition を中心とする国際建設契約の知識と応用力、DB プロセスを運営する能力、DB 裁定を出す能力、また、英語でのコミュニケーション、書く能力の評価を行った。

1) 多項式選択問題 (multiple choice test)

- 契約条件、法概念、クレーム手続き、紛争・DB の手続きなどの知識応用力を問うものであり 89 問からなる。

2) ケース・スタディー (case study)

- 防波堤とコンテナ・バース建設プロジェクトにおける DB の第 1 回現場訪問を計画し、アジェンダをドラフトする。

3) DB 裁定のドラフト (DB decision writing)

- 水力発電所建設に関する紛争が題材。予期せぬ地下条件、それに伴う工事遅延と追加コストクレームに対し、発注者の遅延予定損害賠償請求に関する紛争の裁定
- 高速道路建設に関し、DB 設置の有効性を問う紛争の裁定
- 道路建設工事に関し工事遅延、クレーム手続きに関する紛争、また、発注者の相殺権に関する紛争の裁定

4) 口頭試問 (oral examination)

- multiple choice test、decision writing の中間結果を基に、各個人の評価の再確認のために、口頭試問を行った。
- 問題内容は通告、仕様書、契約内の不明瞭さ、クレームに関するもの、エンジニアの決定、DB 関連問題を取り上げた。

5) 個人面接 (interview)

- アセスメント最終日に各個人を 3 人の審査員が面接を行った。これまでの中間評価の再確認と、コミュニケーション能力の確認を行った。

6.5 アセスメントの結果

アセスメントワークショップにおける評価を総合的に判断して、19 名の内 10 名がアジュディケーターに適格な能力を有しているとの結果が得られた。

アセスメントパネルは、全体評価報告書 (添付-6.2) ならびに合格者リストを作成し JICA に提出した。

尚、ワークショップ最終日に、参加者全員に対してワークショップ修了証 (添付-6.3) が授与された。

6.6 アセスメント結果の評価

アセスメントの結果は以下の通り評価され、ここで指摘される項目が今後の日本におけるアジュディケーター育成のための課題であると認識される。

1) 多項式選択問題 (multiple choice test)

FIDIC MDB 版の契約条件書をまだよく習得していない参加者が目立った。参加者によって成績にかなりのばらつきがみられる。今回不合格になった参加者は次回に受験するときには、FIDIC MDB 版に精通することが求められる。

2) DB 裁定をドラフトする (DB decision writing)

英語を書く能力はほとんどの参加者が十分備えていると判断される。しかしながら、何が契約上のポイントなのか、それを契約条件に基づいて論理を展開する能力が全体的に乏しい。日本の技術者はこのような訓練を受ける機会が少ないので、どうしても苦手のようながあるが、アジュディケーターにとって非常に重要な能力である。一般的に、弁護士、社内法務を業務としている応募者の成績が上回っている。今後、弁護士などを講師として、ケース・スタディーによる問題抽出、論理の展開等の訓練を積むことが推奨される。

6.3 章に示される通り、受講者は現時点でコンサルタント企業やコントラクターに勤務している方が大勢を占めている。裁定の記述試験の解答を見ると、建設契約の契約当事者のどちらか一方に偏った裁定が少なからず見られた。アジュディケーターは、過去の立場に捉われず、あくまでも中立的に状況を判断し、契約に基づき裁定を下すことが必須要件であるため、このための訓練を自ら積むことが求められる。

3) 口頭試問 (oral examination) 及び個人面接 (interview)

書く英語に対して、聞く・話す英語の能力が低い。特に、サイトビジットにおけるヒアリングでは英会話の能力が非常に重要となる。しかし、ワークショップ修了後のインタビューではリラックスしたのか、非常に滑らかに話すことが出来た応募者が多く、評価が幾分改善された。

6.7 アンケート調査の結果と分析

アンケート調査では以下の項目について質問を行った。

- アセスメントワークショップを受講した動機等
- アセスメントワークショップの内容の評価
- DB アジュディケーターに指名されたら今すぐに応じる事が出来るか
- アセスメントワークショップの改善提案

アンケートの回答結果は添付-6.4.1 および添付-6.4.2 に示すとおりであり、以下の通り整理・分析される。

1) アセスメントワークショップを受講した動機等

- 動機について
トレーニングワークショップへの参加動機と同じく大多数の受審者が DB アジュディケーターの資格を取るためとしている。
- 受審料について
受審料が 20 万円の場合受審するか、との質問に対し、9 名が負担する、残り 9 名がそれ以下の金額なら負担すると回答した。
 - ◇ 2 万円： 1 名
 - ◇ 4 万円： 1 名
 - ◇ 5 万円： 1 名
 - ◇ 8 万円： 1 名
 - ◇ 10 万円： 5 名
 - ◇ 20 万円： 9 名

10～20 万円に対し 14 人が個人で負担してもよいとしている。トレーニングワークショップと併せると相当な高額となるが、これまでの仕事の経験を生かし新しい職業に挑戦する人たちが出てきたと解釈される。

- FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicators に応募する意思があるか？
トレーニングワークショップ後のアンケートとほぼ同様であるが、希望者が 2 人減少した。

2) アセスメントワークショップの内容の評価

ワークショップの内容に関わる質問に対する回答は以下の通りであった。

- トレーニングワークショップはアセスメントの準備コースとして適切であったか？
1 人の無回答を除いて 18 人が適切であったと回答している。提案として、DB 裁定を書く訓練が更に必要だとしている。これはケースにおける問題の抽出力と論理展開力の不足を指しているものと考えられる。今後のトレーニングワークショップの最重点ポイントであろう。
- アセスメントワークショップの難易度は高かったか？
半数以上の受審者が難しかったと回答している。典型的な 2 つの回答は、①ホームワークが多すぎる、②自分が如何に FIDIC MDB 版の契約条件書を十分に理解していないかわかる、というものであった。FIDIC President's List のアセスメント、英国の仲裁士の 2 泊 3 日の試験も同様であるが、ホームワークが多いのは必然的かつ伝統的であり、審査員はこれを変更することはないであろう。
- アセスメントワークショップの改善提案
提出した宿題や裁定に対し、審査員のコメントを望む受審者がいるが、これは試験であり、実現は難しいであろう。また、今回はアセスメントワークショップでは模擬 DB ヒ

アリングを実施せず、これを実施すべきとの提案があり、今後考慮されるべきであろう。
また、トレーニングワークショップとアセスメントワークショップはもっと間隔を空けるべきであるとの提案があり、これは十分考慮すべきであろう。

- もしアセスメントに不合格の場合、再度審査を受けるか？
19 人の受審者のうち大多数の 16 人が再挑戦の意思を表明している。2～3 年のうちに実施すべきであろう。

3) DB アジュディケーターに指名されたら今すぐに応ずることが出来るか？

トレーニングワークショップのときより 1 人増えて 10 人が応じると回答している。AJCE にナショナルリストが公式に設置されれば、実際にアジュディケーターとして指名される日もそう遠くはないであろう。

6.8 ナショナルリストの策定計画

本アセスメントの結果を受けて、AJCE では平成 23 年度中に登録制度を発足させ、日本におけるアジュディケーター・ナショナルリストを整備する予定である。

第7章 DB トレーニングキットの有効性検証

7.1 トレーニング・キットの有効性

2009 年度調査で開発されたトレーニング・キットは、国際建設プロジェクトに関わる一定の業務経験を積んだアジュディケーター候補者に Dispute Board にかかる体系的な知識を整理させ、アジュディケーターとしての心構えを身につけさせることを目的にデザインされ、この目的を達成するための具体的な知識、筆記を含めた表現力、コミュニケーション能力増進のためのツールを包括的に備えている。

今回の2つのワークショップ（トレーニング、アセスメント）の目的の一つは本トレーニング・キットの有効性の検証にある。有効性は以下のように検証された。

- トレーニング・ワークショップでは、トレーニング・キットが応募者全員に事前に配布され、応募者が予習をすることが可能になった。
- 講師はキットにあるプレゼンテーション材料を用いて、分担しながら講義を進めた。3名のトレーナーはキットに指示のあるとおり、シナリオを準備し、ケーススタディーに用いた。このようなキットの使用法によってトレーニングが講義という一方的な形態ではなく、受講者が積極的にトレーニング過程に参加すること（interactive）が可能となった。このことによってアセスメントワークショップにおける口頭試問やインタビューにおける応答、コミュニケーション能力が著しく向上した。
- トレーニング・ワークショップにおける decision writing の訓練はアセスメントにおける decision writing 能力を著しく向上させた。
- アセスメントで必要とされる教材、書類がほとんどこのキットに含まれている。次節で提案される改良を行えば、さらに充実する。
- このトレーニング・キットとキットを用いたトレーニング・ワークショップがなければ、19人の応募者のうち10人もの合格者を出すことは不可能であったと思われる。また、ワークショップ後のアンケート調査の結果により、アセスメントのための教材としての有効性、ならびにアセスメントを受けない場合においても DB プロセスの学習に良い教材であることが確認されている。

7.2 トレーニング・キットの改良

今回このキットに含まれていない材料を別に配布したので、下記の材料を今後添付することが推奨される。

- The FIDIC Contracts Guide の clause 20
FIDIC の3種類の契約条件書（Red Book, Yellow Book, Silver Book）を逐条的に比較した解説書が「Guide」である。その20条は「クレームと紛争解決」を規定してお

り、研修資料として有効である。

- **FIDIC Gold Book 「Design, Build and Operate」 の clause 20**
Gold Book は上記 Guide が出版された後に発行されており、FIDIC 契約を全般的に学習するために本資料が有効である。
- **ICC Arbitration Fee Scale**
FIDIC における最終的紛争解決は仲裁である。国際建設仲裁がもっとも頻繁に行われる仲裁協会が ICC (International Chamber of Commerce) であり、この説明をワークショップで行うときに、この代金表が必要となる。

また、受講者からの改善提案を考慮して、以下の改善を加えることが望ましい。

- 目次（または索引）をつけること
- 関係する FIDIC の Sub-Clause 番号を記述すること

第8章 提言

8.1 円借款プロジェクトへのDBの導入・普及体制に関わる提言

1) アジアにおけるアジュディケーター・アセスメントワークショップの開催

本調査で試行されたアジュディケーター・アセスメントワークショップでは、19名の参加者の内、10名の方がアジュディケーターに適格な能力を有しているという判定が得られた。本アセスメント結果は AJCE に送付されるため、これらの方々が、現時点で設置が準備されている AJCE のナショナルリストに登録され、日本人アジュディケーターとして実際のプロジェクトで活躍されることが期待される。

AJCE が設置を予定するナショナルリストは、アジアでは最初のナショナルリストであり、FIDIC が推奨するアジュディケーター増強策の一旦を担うものとなる。しかしながら、円借款プロジェクトにおいても今後とも増加するアジュディケーターの需要に応じてゆくためには、アジアの他の国においてもナショナルリストの整備が進められ、アジュディケーターの供給体制をより盤石なものとするのが理想的である。

但し、アジュディケーター候補者のためのトレーニング・ワークショップやアセスメントワークショップの実施には、これらプログラムを立案し推進する母体となる組織が必要であり、また講師や審査員としてはアジュディケーターとしての経験を有する人材の参画が必須である。

現状では、アジアの開発途上国が自ら実行組織やリソースパーソンを手配し、全体のプロセスを管理するのは困難であるという問題があり、JICA がこれらプログラムの実施を運営面と資金面で支援することができれば、アジアにおけるアジュディケーターの育成と増強に大きく貢献するものと考えられる。また、JICA がこれまでに開発した、建設契約管理教材 (Module 1, Module 2, DB Adjudicator Training Kit) および、本調査で実施したアセスメントワークショップの経験を有効に活用することができる。

一連のプログラムの骨格は以下のとおり計画される。

(1) 対象国

研修とアセスメントの参加者の国籍は、以下のクライテリアにより選定することが考えられる。

- i) JICA円借款プロジェクトが実施されており、また継続的に実施される可能性が高いこと。
- ii) ナショナルリストを設置する組織として有望であるFIDICのMember Associationが存在すること。
- iii) トレーニング・ワークショップやアセスメントワークショップに参加できるだけの経験と知見があり、アジュディケーターを務める意志のある人材が存在すること。

これらの要件を満たす国としては、インドネシア、ベトナム、フィリピン、インド、スリランカの5ヶ国が候補として挙げられる。

(2) 実施場所

複数の対象国からの参加者を一堂に集め研修とアセスメントを行うことが経済的であり、また参加者間の切磋琢磨を促すためにも有効であると考えられる。研修とアセスメントを実施する拠点は、次の理由によりフィリピン国マニラ市が最も有望であると考えられる。

- i) 各国からのアクセスが良い。
- ii) 現状においてもADRが盛んであり、優秀なアジュディケーターを輩出できる可能性がある。
- iii) Asian Institute of Management (AIM) などのマネジメント系の国際教育機関と連携できる可能性がある。
- iv) DBの普及はFIDIC MDB版の使用をJICAと共に推奨するMDBsとJICAが連携することで一層促進されることが期待される。従って、本プログラムは、JICAと同じくアジア諸国を主たる借入国としているアジア開発銀行と共同で実施することにより波及効果を拡大することができる。この場合、マニラに本部を置くアジア開発銀行との連携を容易にとることができる

(3) 参加者の募集方法

参加者は、各国のMember Associationを窓口として、当該国の建設業関連協会やDRBFなどとも連携しながら、広く募集する。参加要件は、本調査におけるワークショップで採用したものと同等とする。講師のキャパシティを考慮すると参加者は最大でも合計20名程度に抑える必要があるため、各国からの参加者は最大でも4～5名程度とする必要がある。

(4) トレーニング・ワークショップ

以下の2種類のトレーニング・ワークショップを行う。

- i) Module 1 (Practical use of the FIDIC Conditions of Contracts)、並びにModule 2 (The management of claims and dispute resolution procedures)、5日間
- ii) DB Adjudicator Training Workshop、5日間

これら二つのワークショップは、3か月程度の間隔をとり実施するものとする。プログラムは、これまでのJICA調査で実施されたものと同様とする。

また、講師については、Module 1と2については2名、トレーニング・ワークショップについては3名とし、FIDIC公認トレーナーやFIDIC President's Listのアジュディケーターなどの経験豊かな人材を登用することが望ましい。

(5) アセスメントワークショップ

FIDIC President's List Adjudicatorを務める3名のアジュディケーターによりアセスメントパネルを編成し、3日間のワークショップを行う。プログラムは、本調査で実施されたものと同様として3名のアセスメントパネルにより行われ、時期としてはトレーニング・ワークショップに連続して実施する。

(6) アセスメント結果の活用

アセスメントの結果は各国のFIDIC Member Associationに報告する。ナショナルリストへの登録などの事後の手続きについては、各Member Associationに一任する。ナショナルリスト作成に関しては、AJCEがその経験を各Member Associationと共有し貢献することが期待される。

今後、円借款事業においてアジュディケーターの登用に関してJICAが実施機関から相談を受けた場合に、これらのナショナルリストが有効に活用されることが期待される。

2) DBの導入と普及に関わる国際的プロモーション活動

本調査で実施されたMDBへのヒアリングにおいて、建設契約上はDBの設置が規定されているにも拘らず、その設置が引き伸ばされているプロジェクトが少なくなく、またその実態が詳細には把握されていないことが確認された。

プロジェクトの融資機関がその使用を義務付けている（又は推奨している）標準契約書が、本来の規定通りに運用されない場合、本来意図していた契約当事者間のリスク配分が崩れたり、契約上のプロセスが滞ることにより、工事の遅延やコストの増加を招来する可能性が高くなる。特に、常設DBが設置されない場合は、DBが備える紛争予防機能が発揮されないことにより契約紛争が多発することも危惧される。

JICAが2008年度より取り組んできたDBの普及とアジュディケーター育成のための活動は、開発援助に携わる国際金融機関の中で先駆的であることから、JICAの主導によりこの活動の輪をさらに広げてゆくことが期待される。具体的には以下の2つの施策の実施が推奨される。

(1) JICAの活動内容と実績の広報

JICAがこれまでに実施してきた、プロジェクト関係者への啓蒙、研修材料の開発、研修の実施、アセスメントワークショップの試行などの活動内容を広く広報し、関係機関への理解と同調を促す。広報ならびに協議の場としては、開発途上国の発注者やMDBからも参加がある以下の国際会議が適切と考えられる。

- i) FIDIC Annual Conference (毎年9月)
- ii) FIDIC Asia-Pacific User's Conference (毎年6月)
- iii) FIDIC MDB Harmonized Major Works (Construction) Contract Conference (適宜)
- iv) DRBF International Conference (毎年5月)

さらに、国際金融期間の間で実施される「調達」に関わる会議などの場で、協議を行うことも有効であると考えられる。

(2) DB普及・育成活動における他の国際金融機関との協調実施

DB の普及を促すためには、建設契約の発注者に DB の便益を正しく理解させることが重要であり、発注者への教育・研修を実施することが効果的である。JICA はこれまでに、フィリピン、インド、ベトナム、カンボジア、バングラデシュ、スリランカにおいて、JICA 円借款プロジェクトの実施機関を対象としてセミナーを開催してきたが、実施機関の DB に関わるコスト負担に対する抵抗感は依然としてかなり強いことから、これらのセミナーは継続して繰り返し実施する必要がある。

今後の研修活動については、円借款プロジェクトの実施機関は他のドナーの実施機関も兼ねていることが多く、また研修に関わる費用を合理的に分散するためにも、他の国際融資機関（特にアジア開発銀行）との協調により実施することを提言する。

また、セミナー開催候補国の選定については、平成 21 年度の調査報告書「アジア地域における DAB・アジュディケーター導入・普及のための企画検討調査」においてインドネシア、ベトナム（ホーチミン）、パキスタンが優先国として提示されており、基本的にこの計画が踏襲されるべきであると考えられる。

8.2 円借款プロジェクトにおけるアジュディケーター活用に向けた提言

1) パイロットプロジェクト又は重点プロジェクトにおけるDB運用促進

平成 21 年度の調査報告書において、以下の二項目を目的とするパイロットプロジェクトの試行が提案されており、パイロットプロジェクトの実施は円借款プロジェクトへのアジュディケーター活用のための活路を開く方策の一つであると考えられる。

- (1) DBを建設契約に導入することによりプロジェクトが円滑に実施され、結果として発注者の便益が増大することを実証すること。
- (2) DBのコストをJICAが負担することにより、実施機関のDB導入に対する経済的な障壁を軽減すること。

しかしながら、パイロットプロジェクトの実施には以下の課題が認識される。

- パイロットプロジェクトの準備と効果の発現のためには少なくとも2年から3年間程度の時間を要すると考えられる（パイロットプロジェクトの選定：約3か月、実施機関との協議と合意形成：約3か月、入札書類への反映：約6か月、入札と入札評価：6か月、DBの効果発現確認期間：約12か月）
- パイロットプロジェクトを実施するプロジェクト数が少ない場合に、被援助国に対する公平性の確保が課題となる。
- 実施機関の費用負担を軽減するため、DB費用は無償資金協力により賄うことが想定されているが、これまで事例がないこともあり、支援を行うための制度面での検討が必要

要である。

これら課題を解消するための代替案として、現在進行中の複数のプロジェクトにおいて DB の設立と運用を JICA が側面から支援することが考えられる。即ち、契約上で常設 DB の設置が既定されている案件の中から、まだ DB が設置されていない案件を抽出し、実施機関との面談によりその原因を特定し解決策を協議しながら、DB の設置を個別に促進するものである。

アジア地域の大型円借款案件で、今後 1～2 年以内に契約が締結され、3 人制常設 DB が設置される予定の案件の例は以下のとおりであり、これらの案件が対象となり得る。

表 - 8.1 DB 運用促進対象案件

案件名	国	工事内容
Samawah Bridges and Roads Construction Project	イラク	ユーティリティ工事
Thai Binh Thermal Power Plant and Transmission Line Construction Project	ベトナム	火力発電所建設 (300 MW x 2)
Jakarta Mass Rapid Transportation System (1)	インドネシア	地下鉄の土木工事 (延長 16 k m)

(出所：調査団)

2) DBをより確実に運用するためのJICA内部プロセスの確立

DB の運用に関わるコストは以下の項目よりなるが、これらのコストが供与される円借款の対象であることを調達ルールの中に明確に位置づける必要がある。

(1) アジュディケーターへの報酬

- ・リテイナー
- ・サイトビジット
- ・アドバイザーリーオピニオン、ヒアリング及び裁定の作成

(2) 直接経費

- ・渡航経費
- ・現場における宿泊費
- ・その他の必要経費

本調査で実施した MDB の調査（アジア開発銀行、世界銀行、米州開発銀行）においても、これらのコストがローン対象費用であることの明確な根拠が見いだせなかったが、DB 費用がローンの対象費用であることを調達ルールにおいて文書化することにより、発注者は DB 費用が必要なプロジェクトコストの一部であることを明瞭に認識することができる。

また、プロジェクトのアブレイザルにおいては、事業費積算の中に DB 費用が適切に計上されているかを確認する必要がある。DB 費用は、最終的には発注者と請負者が折半することになるが、事業費としては全額を計上する。

さらに、入札図書の審査段階では、発注者が DB コストの発注者負担分を請負者に支払うメカニズムが契約書で規定されているかを確認する。DB コストの支払い手続きは、アジュディケーターからの毎月のインボイスに基づき、先ずコントラクターがその全額をアジュディケーターに支払う。その後、アジュディケーターから提出される受領書の半額を発注者にクレームする。発注者は、数量明細書 (Bill of Quantities) の中に DB 費用を賄うために用意された Provisional Sum (暫定費用) 項目を原資としてコントラクターへの支払いを行う。

この Provisional Sum を利用する方法は、米国において一般的に採用されており、最も現実的かつ合理的な方法であると考えられる。さらに、予想される DB コストを Provisional Sum に含めることにより、以下の利点が生み出される。

- (1) 複数の応札者の入札金額には同一の DB コストが含まれることになるため、入札評価が公平に行われる結果となる。
- (2) Provisional Sum は入札評価の対象となる入札金額から除外されるため、コントラクターによる DB コストの過小見積りのリスクが軽減される。

建設契約の締結後は、発注者もしくはコンサルタントから提出される月報やインボイスを精査することで、DB が設置されたかどうかをトレースすることが可能となる。

上記の一連のプロセスを実行することにより、円借款プロジェクトにおけるアジュディケーターのより確実な活用が促進されるものと考えられる。

3) アジュディケーター育成のためのメンタリング制度の運営支援

今後、アジア地域で新人のアジュディケーターが輩出される場合、アジュディケーターとしての実務経験が無い人も含まれてくることが想定される。経験のあるアジュディケーターの実務に付き添わせ、現場において訓練を行うメンタリング制度は、アジュディケーターの能力向上のために非常に有効である。JICA プロジェクトは、アジア地域でメンタリング制度を実施するための恰好の場であり、例えば 8.1 章において提案されたアセスメントワークショップの合格者に対するメンタリング制度参加のための支援が JICA より提供されるならば、キャパシティビルディングの観点から大変に望ましい。支援の内容としては、メンタリング制度促進のための実施機関への働きかけ、およびメンタリングに関わる費用面での支援が考えられる。

尚、FIDIC ではアジュディケーターのためのメンタリングプログラム (National Adjudicator Pupilage) を推進しており、その骨子は以下の通りである。

- (1) 対象者 : National List Adjudicator (およびその候補者)
- (2) 指導者 (メンター) : FIDIC President's List Adjudicators
- (3) 期間 : 約 1 年間
- (4) プログラムの内容
 - i) Email の交信による研修 (12 のエクササイズ、合計約 90 時間)

- ii) 4つのワークショップにおける研修（各2～4時間）
 - iii) サイトビジットおよびヒアリングへの陪席（各1日間）
- (5) 費用負担：参加者は交通費やワークショップ参加費を負担（メンターの報酬は無料）

添 付

Questionnaire on National List of Dispute Board Adjudicator

1. Background

- 1) JICA (Japan International Corporation Agency) adopted FIDIC Red Book MDB edition in its Sample Bidding Documents for civil works in June 2009, and therefore Dispute Board (DB) was introduced in the process of dispute resolution under the Contract
- 2) Since numbers of qualified adjudicators might become insufficient to cope with increasing demand of adjudicators for Japanese ODA Loan project, JICA has been conducting a promotion study of adjudicators since year 2008.
- 3) The outcomes of the study so far are;
 - (1) DB promotion seminar in JICA ODA loan recipient countries in Asia (India, Philippines, Vietnam, Sri Lanka, Indonesia, Bangladesh and Cambodia)
 - (2) Development of DB adjudicator training kit
 - (3) Preliminary study on development of National List for Adjudicator by FIDIC Member Association in Asia.
- 4) This year, JICA intends to carry out the study with the following TOR;
 - a) Survey on development of National List (NL) by FIDIC MA in Europe
 - b) Survey on effectiveness of DB process in MDB funded projects (ADB and WB)
 - c) DB adjudicator training seminar in Tokyo
 - d) DB adjudicator assessment workshop in Tokyo

2. Purpose of Questionnaire

The questionnaire shown in the next page corresponds to item a) of TOR above and it aims to learn how National Lists have been prepared in the countries those already established National List. The lesson and learned experienced in such countries will be very useful and helpful for preparation of new National List in the Asian countries including Japan.

QUESTIONNAIRE

1. About Your Association

- 1) Year of establishment
- 2) Organization chart of association
- 3) Nos. of member firms
- 4) Nos. of consulting engineers under member firms

2. Present Status of National List (NL)

- 1) Nos. of listed adjudicators
- 2) Short CV of adjudicators
- 3) What kind of organization does adjudicator belong to ? (e.g. contractor, consultant, law firm, self-employed, etc.)
- 4) Demand of adjudicators from the projects
- 5) Type of project to which adjudicators are appointed (domestic or international projects)

3. Training Program for Adjudicators

- 1) Does your association provide training course (or workshop) for candidate of adjudicator?

If yes,

- 2) Program of training course (or workshop)
- 3) How often do you provide training course (or workshop)?
- 4) Total numbers of participants (trainees) so far
- 5) Trainers (FIDIC accredited trainers?)
- 6) Training materials
- 7) Participation fee
- 8) Please provide suggestions and recommendation on training of candidates of

adjudicators based on your experience, if any.

4. Assessment of Adjudicators

- 1) Application procedure
- 2) Criteria for admission
- 3) Assessment procedure
- 4) Criteria for registration to national list
- 5) Formation of assessment panel
- 6) How often do you provide assessment workshop?
- 7) Fee for application
- 8) Please provide suggestions and recommendation on establishment of National List based on your experience, if any.

5. Listing of Adjudicators

- 1) Listing procedure
- 2) Maintenance and renewal of National List
- 3) Criteria for re-listing
- 4) Fee for listing
- 5) Does your association appoint the listed adjudicator, when requested?

If yes,

- 1) How often have you appointed adjudicators so far?

FIDIC Member Association との協議日程

	VBI (ドイツ)	SIDiR (ポーランド)
日時	2010年11月18日、14:00-15:30 2010年11月19日、10:00-12:00	2010年11月16日、13:30-16:00 2010年11月17日、11:00-12:30
場所	VBI 事務所 (ベルリン)	CIDiR 事務所 (ワルシャワ)
MA 側出席者	<ul style="list-style-type: none"> Mr. Klaus Rollenhagen(VBI 理事) Dr. Sebastian Hok (弁護士、FIDIC アシユテイクター) Ms. Tatjana Steidl (VBI 事務局) 	<ul style="list-style-type: none"> Mr. Kristof Woznicki(SIDiR 会長) Mr. Grazyna Doktorska(SIDiR 事務局長) Mr. Caciej Rozanski (SIDiR アシユテイクター)
JICA 側出席者	<ul style="list-style-type: none"> 坂田章吉 (JICA 資金協力支援部次長) 大木扶由子 (JICA 資金協力支援部調達監理課) 林幸伸 (JICA 調査団) 	<ul style="list-style-type: none"> 坂田章吉 (JICA 資金協力支援部次長) 大木扶由子 (JICA 資金協力支援部調達監理課) 林幸伸 (JICA 調査団)

	ARIC (ルーマニア)	CECOPHIL (フィリピン)
日時	2010年11月22日、10:30-12:30	2011年1月27日、10:00~11:30
場所	ARIC 事務所 (ブカレスト)	CECOPHIL 事務所(TCGI Engineers、マニラ)
MA 側出席者	<ul style="list-style-type: none"> Mr. Nicolae MICU (ARIC 会長、ARIC アシユテイクター) Ms. Alina Oprea (DRBF ルーマニア代表、ARIC アシユテイクター) Ms. Luliana Diaconovici (ARIC 事務局) 	<ul style="list-style-type: none"> Mr. Virgilio A. Madrazo (CECOPHIL 会長) Mr. Michael Roberto P. Reyes (CECOPHIL 前会長) Ms. Lailani L. Pimentel (CECOPHIL 事務局)
JICA 側出席者	<ul style="list-style-type: none"> 林幸伸 (JICA 調査団) 	<ul style="list-style-type: none"> 大木扶由子 (JICA 資金協力支援部調達監理課) 林幸伸 (JICA 調査団)

FIDIC Member Association における調査結果概要

調査項目			FIDIC (President's List)	ポーランド (SIDiR)	ドイツ (VBI)	ルーマニア (ARIC)	
協会	協会設立年		1913 年	1994 年	1903 年	1999 年	
	会員数	企業	80 (Member Association)	25	約 3,000	31 (個人会員は無し)	
		個人	約 615,000 名	878 名 (内、個人は約 300 名)	個人も企業とみなすため 個人会員はない (個人も 含めた企業の代表者数： 約 4,000 名)	約 4,000 名	
	理事会		11 名	9 名	8 名	5 名	
ナショナルリスト	作成開始年		1999 年	1999 年	2007 年	2008 年	
	人数		47 名	32 名	6 名	11 名	
	アソシエイトの 所属組織		個人	個人	個人(5)、建設会社(1)	コンサルタント企業 (7) 建設会社 (1) 弁護士 (3)	
	アソシエイトの 専門性	技術者		-	27 名	5 名	8 名
		弁護士		-	4 名	1 名	3 名
エコノミスト			-	1 名	0 名	0 名	
アソシエイトの活 用状況	プロジェクト		国際・国内プロジェクト	主に国内プロジェクト	国際プロジェクト	国内プロジェクト	
	標準報酬	議長		3,000US\$/day	1,000US\$/day	-	-
		メンバー		3,000US\$/day	800US\$/day	-	-
		リテイナー		1~3 日分/月	1 日分/月	-	-

調査項目		FIDIC (President's List)	ポーランド (SIDiR)	ドイツ (VBI)	ルーマニア (ARIC)
FIDIC 契約トレーニングプログラム	種類	1) Module 0 2) Module 1 3) Module 2 4) Module 3 5) Module 4	1) セミナー(FIDIC のモジュール1,2とは異なるが FIDIC 関連):1~2回/年 2) カンファレンス(総会):1~2回/年(300~400人) 3) クラス オブ レクチャー:必要に応じて実施(35~40人)	1) ベーシックコース (1日) 2) メインコース (FIDIC モジュール1+法律用語) (2日) 3) 集中コース1-クレームと紛争 (2日) 4) 集中コース2-アジュディケーター審査準備 (2日)	2006年から2年間毎週ワークショップ実施
	講師	FIDIC 公認トレーナー	当初は FIDIC から招聘、現在は内部のレクチャー又はポーランド国内から人選	ドイツ人の FIDIC 公認トレーナー	国内仲裁人など
アジュディケーターのアセスメント	審査方法	3人制審査パネルによる3日間ワークショップ	理事会で決定 (面接を実施する場合もある)	3人制審査パネルによる3日間ワークショップ	ARIC 会長と DRBF 代表の2名
	登録要件	1) FIDIC MA の会員 10 年以上 2) 適正な学業または専門家としての技術者資格又は相当の資格 3) 10年以上の契約紛争解決分野におけるエンジニアとしての経験 4) FIDIC 契約書の知識と経験	1) 専門家としての実務経験 10 年以上。2つ以上の大規模プロジェクト(5百万 Euro 以上)への参加。 2) PM、エンジニア、またはそれ相当の経験 2 年以上 3) SIDiR 会員実績 3 年以上	1) 審査ワークショップの通過 2) CV (英語と独語) の提出。 3) 少なくとも 5 年間の適正な学業または専門家としての技術者資格又は相当の資格 4) 少なくとも 5 年間の	2年間の研修を通じて資質を審査した

調査項目			FIDIC (President's List)	ポーランド (SIDiR)	ドイツ (VBI)	ルーマニア (ARIC)
			5) 仲裁人又はアジュディケーターとしての十分な経験 6) 3日間の資格審査試験の通過 7) 対人関係やコミュニケーションの能力 8) アジュディケーターとしての指名に応えること 9) 中立的で客観的であること	4) 研修3回以上参加 5) 2名のアジュディケーターからの推薦状	principal engineer (又はそれ相当)としての実績 5) 雇用人の場合は就業証明の提出	
登録	登録料	最初の登録	250 ユーロ	無料	350 ユーロ(会員は 250 ユーロ)	無料
		継続登録料	100 ユーロ	無料	150 ユーロ(会員は 100 ユーロ)	無料
	更新年数		3年間		2年間	

Questionnaire on Dispute Board in MDB Projects

1. Background

- 1) JICA (Japan International Corporation Agency) adopted FIDIC Red Book MDB edition in its Sample Bidding Documents for civil works in June 2009, and therefore Dispute Board (DB) was introduced in the process of dispute resolution under the Contract
- 2) Since use of DB is new and, thus, constitute a big challenge to donors as well as to developing partner countries, JICA has been conducting a promotion study of adjudicators since year 2008.
- 3) The outcomes of the study so far are;
 - (1) DB promotion seminar in major partner countries in Asia (India, Philippines, Vietnam, Sri Lanka, Indonesia, Bangladesh and Cambodia)
 - (2) Development of DB adjudicator training kit
 - (3) Preliminary study on development of National List for Adjudicator by FIDIC Member Association in Asia.
 - (4) Survey on development of National List (NL) by FIDIC MA in Europe
 - (5) DB adjudicator training & assessment seminars in Tokyo

2. Purpose of Questionnaire

The questionnaire shown in the following pages is to know how Multi-lateral Development Banks (MDB) have DB applied in the contracts they finance. More concretely, we are interested in how Dispute Board is effectively used, opinions of executing agency for use of Dispute Board, issues for dissemination of Dispute Board, and actual practice of operation of Dispute Board, etc. in the projects financed by MDB.

QUESTIONNAIRE

1. Application of Dispute Board (DB) in Construction Contract

- 1) We believe use of DB is mandatory when bidding documents are drafted in accordance with the Bank's standard bidding documents for Works or Plant.
 - Is this interpretation correct?
 - How frequent the Bank's standard bidding documents for Works or Plant are used?
 - Could you also provide a rough idea on the numbers of contracts by amount the Bank approves every year. (We are interested in how many Bank-financed contracts are worth using DB. For information, JICA approves around 400 to 500 contracts every year, of which around 30 to 50 and 10 to 15 exceed 3 billion JY and 10 billion JY respectively.)
- 2) How many on-going projects and how many percent of the on-going projects use DB at present?
- 3) Once a contract is issued, who/which structure in the Bank ensures the follow-up for actual establishment of a DB? Or does the Bank completely leaves it to the parties to the contract?
- 4) Do you have any recommended criterion on selection of type of DB for recipient countries?
 - i) standing DB or ad-hoc DB
 - ii) three-person DB or one-person DB
- 5) Do you think FIDIC President's List is a major source of adjudicator appointed by contract parties?

2. Training of Adjudicators

- 1) It seems that numbers of adjudicator listed in FIDIC President's List have become insufficient to cope with increasing demand of DB from the projects. Do you have any training programs for candidates of adjudicators?
- 2) If yes, do you obtain any assistance from such professional organization such as FIDIC and Dispute Resolution Board Foundation (DRBF) ?

3. Benefit of Dispute Board

- 1) How do you recognize the benefit of DB experienced in the projects financed

by your Bank?

2) Do you think the recipient countries understand benefit of DB and are willing to adopt DB in dispute resolution and prevention process?

3) If not, what is the major concern the recipient countries have?

4. Cost of Dispute Board

1) Is the cost of dispute board is eligible cost under the loan provided by your Bank?

2) If yes, how these costs are paid to Dispute Board and reimbursed to the recipient country?

3) Do you have any suggested method of cost estimate for employment of dispute board in project appraisal stage?

MDB および DRBF との協議日程

	アジア開発銀行	世界銀行
日時	2011年1月28日、9:30～11:30	2011年2月1日、9:30～10:45
場所	アジア開発銀行本部（マニラ）	世界銀行本部（ワシントン）
MDB 側出席者	<ul style="list-style-type: none"> • Mr. Ignatius Santoso (Director, Central Operation Services Division 2) • Mr. Jeff Taylor (Senior Procurement Specialist, Central Operation Services Division 2) • Mr. Jesper Pedersen (Procurement Specialist, Central Operation Services Division 2) • 宮尾泰助氏 (Procurement Specialist, Central Operation Services Division 2) 	<ul style="list-style-type: none"> • Mr. Ian Nightingale (Lead Procurement Specialist, Procurement Policy and Service Unit)
JICA 側出席者	<ul style="list-style-type: none"> • 伊藤隆司 (JICA 資金協力支援部調達監理課長) • 大木扶由子 (JICA 資金協力支援部調達監理課) • 林幸伸 (JICA 調査団) 	<ul style="list-style-type: none"> • 工藤智春 (JICA 米国事務所) • 林幸伸 (JICA 調査団)

	米州開発銀行	DRBF
日時	2011年2月2日、15:00～16:00	2011年2月2日、9:45～11:15
場所	米州開発銀行本部（ワシントン）	JICA 米国事務所（ワシントン）
MDB/DRBF 側出席者	<ul style="list-style-type: none"> • Ms. Maria Camila Padilla (Procurement Specialist, The Project Procurement, Financial Management and Portfolio Division) 	<ul style="list-style-type: none"> • Mr. Harold V. Mckittrick (元 DRBF 会長)
JICA 側出席者	<ul style="list-style-type: none"> • 工藤智春 (JICA 米国事務所) • 林幸伸 (JICA 調査団) 	<ul style="list-style-type: none"> • 工藤智春 (JICA 米国事務所) • 林幸伸 (JICA 調査団)

MDB からのアンケート回答骨子

Question	Response		
	ADB	WB	IDB
1. Application of Dispute Board (DB) in Construction Contract			
1) We believe use of DB is mandatory when bidding documents are drafted in accordance with the Bank's standard bidding documents for Works or Plant.			
(1) Is this interpretation correct?	Yes, use of DB is mandatory under Works or Plant contracts.	Yes, use of DB is mandatory under Works or Plant contracts. However, the Bank does not trace whether the DB is actually established or not in each contract.	Yes, use of DB is mandatory under Works contracts (IDB does not have Plant contract yet). However, Alternative Dispute Resolution is not accepted by the law in some countries. In such case, provisions in the conditions of contract are obliged to follow the legal system of the country.
(2) How frequent the Bank's standard bidding documents for Works or Plant are used?	Such statistic is not available.	Such statistic is not available.	Such statistic is not available.
(3) Could you also provide a rough idea on the numbers of contracts by amount the Bank approves every year. (We are interested in how many Bank-financed contracts are worth using DB. For information, JICA approves around 400 to 500 contracts every year, of which around 30 to 50 and 10 to 15 exceed 3 billion JY and 10 billion JY respectively.)	Number of contract exceeding 10 million USD is about 100 per year (110 contracts in 2009, 98 contracts in 2008, 89 contracts in 2007, and 90 contracts in 2006) In 2009, number of contract less than 10 million USD is 6,300. Among them, 5,630 contracts are less than one million USD.	The total number of new contract financed by WB is about 22,000 per year which includes consultancy agreements also. We will check whether the data requested is available or not and inform you later, if found.	The Bank has about 600 projects financed by IDB at present, however, we do not have such statistics. There are several contracts exceeding 500 mil USD value.
2) How many on-going projects and how many percent of the on-going projects use DB at	Such statistic is not available.	We do not monitor status of DB in each project, thus such data is not	We do not have such data.

Question	Response		
	ADB	WB	IDB
present?		available so far.	
3) Once a contract is issued, who/which structure in the Bank ensures the follow-up for actual establishment of a DB? Or does the Bank completely leaves it to the parties to the contract?	The Bank leaves it to the contract parties.	The Bank is not in a position to follow up establishment of DB.	The Bank is not in a position to follow up establishment of DB.
4) Do you have any recommended criterion on selection of type of DB for recipient countries? i) standing DB or ad-hoc DB ii) three-person DB or one-person DB	The Bank does not have specific criterion.	It largely depends on scale and complexity of the project.	Under the Works contract, standing board is standard form. Regarding number of board member, the Bank does not have a specific recommended criterion.
5) Do you think FIDIC President's List is a major source of adjudicator appointed by contract parties?	Such statistic is not available.	The FIDIC President's list seems to be a good source, however, we do not monitor actual source of adjudicator for every contract.	We do not have a specific idea.
2. Training of Adjudicators			
1) It seems that numbers of adjudicator listed in FIDIC President's List have become insufficient to cope with increasing demand of DB from the projects. Do you have any training programs for candidates of adjudicators?	The Bank does not have such training program.	The Bank does not have such training program.	The Bank does not have such training program.
2) If yes, do you obtain any assistance from such professional organization such as FIDIC and Dispute Resolution Board Foundation (DRBF) ?			
3. Benefit of Dispute Board			
1) How do you recognize the benefit of DB experienced in the projects financed by your Bank?	Number of project employing DB is still small so that it is difficult to clearly identify the benefit of DB based	(1) to minimize delay of the progress of the work (2) to settle disputes early	The Bank does not have much experience on Dispute Board, therefore it is difficult to point out

Question	Response		
	ADB	WB	IDB
	on actual experience.		real benefit of Dispute Board.
2) Do you think the recipient countries understand benefit of DB and are willing to adopt DB in dispute resolution and prevention process?	High cost expenditure for appointment of Dispute Board seems to be a major concern for many of the Executing Agencies. It is not easy for them to justify such expenditure against potential benefit.	It seems only some executing agencies recognize benefit of DB, but not all.	Dispute Board is a quite new system for the recipient countries, therefore it seems they have not recognized the benefit of Dispute Board yet.
3) If not, what is the major concern the recipient countries have?	As stated above.	A lack of awareness of real benefit to be brought by BD.	
4. Cost of Dispute Board			
1) Is the cost of dispute board is eligible cost under the loan provided by your Bank?	There is nothing in ADB's lending policies to prohibit loan funds being used to finance a borrower's portion of costs incurred. Indeed it could be argued that such costs are implicitly "approved" as ADB's general conditions of contract require a DB agreement that requires retainer payments to be made to the member(s).	The DB cost is not recognized as a cost component to be financed by WB basically. The procurement guideline does not say so clearly. However, the DB cost is actually covered by the provisional sum (or contingency) of the loan in some cases. It is up to the discretion of the task manager.	Our procurement policy does not stipulate that DB cost is eligible cost under the loan. However, it can be covered by the loan.
2) If yes, how these costs are paid to Dispute Board and reimbursed to the recipient country?	We as an institution would not have an issue should a line item for this purpose be included in the BoQ or schedule.		
3) Do you have any suggested method of cost estimate for employment of dispute board in project appraisal stage?	The Bank does not have standard cost estimate method or guideline.	No, because the DB cost is not a cost component under Bank loan in principle.	No, we do not have such guideline.

APPLICATION FORM
(DB Training Workshop/DB Assessment Workshop)

Date (dd/mm/yy)		Signature	
---------------------------	--	------------------	--

Family Name	
First Name	
Country of Residence	
Address	
Date of Birth	
Telephone Number	
Fax Number	
E-mail Address	
Educational Qualifications	
Professional Qualifications	
Current employment status (if employed)	
Present position (if employed)	
Positions held (position, organization, dates)	
Particular technical expertise	
Dispute resolution experience	
Standard form of contract familiarity	
FIDIC Modules 1&2 seminar (completed/to be completed)	
Other panel listings (organization, country, list)	
Languages (language, level)	
Publications (publications, dates)	

プログラム (DB アジュディケーター・トレーニングワークショップ)



Dispute Board Adjudicator Training Workshop



1. Date :
15 December (Wed) to 18 December (Sat), 2010
2. Time :
Morning Session : 9:00 to 12:00
Afternoon Session : 13:00 to 17:00
3. Venue :
Kousai Kaikan
5-1, Kojimachi, Chiyodaku, Tokyo
Tel : 03-5276-0333
4. Trainers :
Mr. Gordon L. Jaynes
Mr. Richard Appuhn
Prof. Dr. Toshihiko Omoto
5. Workshop Materials :
 - 1) JICA DB Training Kit
 - 2) FIDIC Conditions of Contract for Construction (MDB Harmonized Edition, 2006)
 - 3) JICA Sample Bidding Documents - Procurement of Works (2009)
6. Opening Session (15 December, 9:00 -) :
 - 1) Opening Remarks Mr. Shokichi Sakata
Deputy Director General,
Financing Facilitation and Procurement Supervision
Department,
Japan International Cooperation Agency
 - 2) Orientation Mr. Yukinobu Hayashi
Team Leader, JICA Study Team

Programme for A Four-Day Training Workshop

		Program	Purpose	Form or Method
Day 1	AM	Introduction of Trainers/Trainees Introduction to Dispute Board <ul style="list-style-type: none"> • What is FIDIC? • What is a Dispute Board? • Arbitration Rules 	Review of history / Structure / Current status of FIDIC Review of history/Concept of DB Arbitration as the final resort of dispute resolution and its costs	Lecture with PPT, Q&A and interactive discussion
	PM	Setting up a DB <ul style="list-style-type: none"> • Procedure • DB Member's Qualifications • Adjudicator's Lists DB Costs	Contractual procedure of setting up a DB, Professional requirements of DB members, application of existing adjudicators lists Right understanding of Cost components of DB	Lecture with PPT, Q&A and interactive discussion
	Evening Home- Work	Prepare a draft CV	A chance for a participant to draft a good CV for promoting him/herself a competent DB adjudicator	Trainers should review the drafts and return them to participants with comments during the Workshop
Day 2	AM	Operation of Dispute Board (1) <ul style="list-style-type: none"> • Site visits • DB meeting • Site tour • Informal discussion of potential disputes 	Understand and acquire the knowledge and practice of DB function, point out and consider the things to remember at each stage of DB operation	Lecture with PPT, Q&A and interactive discussion
		Operation of Dispute Board (2) <ul style="list-style-type: none"> • Site visit report • Supplying information to DB Members during intervals of Site visits (monthly reports, updated work schedule, claim notice, other important letters, etc.) 	Understand and acquire the knowledge and practice of DB function, point out and consider the things to remember at each stage of DB operation	Lecture with PPT, Q&A and interactive discussion
	PM	Operation of Dispute Board (3) <ul style="list-style-type: none"> • Referral & Time Limit • Written Submissions • Hearing(s) • Transcripts 	Proper understanding and acquiring knowledge and practice of procedure of referral / hearings / documentation/ transcript	Lecture with PPT, Q&A and interactive discussion

	Evening Home-Work	Preparation for Mock Hearing	Understanding a hypothetical scenario and each party's case (participants are provided each party's position paper).	Group work by the participants divided into groups with three members (a DB)
Day 3	AM	Operation of Dispute Board (4) <ul style="list-style-type: none"> Mock Hearings for workshop participants 	Understanding and acquiring knowledge and practice: Rules of hearing, role of each participant, proper reaction at a difficult situation	3 participants make 1 group; 3 groups play roles of: Group 1: DB, Group 2: Employer, Group 3: Contractor Continued on by the other 3 groups.
	PM	Operation of Dispute Board (5) <ul style="list-style-type: none"> DB Decision Purpose DB Decision Structure DB Dissents 	Learning writing a decision in a proper structure satisfying requirements, what to be done if unanimous decision is not possible?	Lecture with PPT, Q&A and interactive discussion
		After the Decision <ul style="list-style-type: none"> "Amicable Settlement" period Enforceability of DB decision 	After a decision is given, what should be done if either or both parties are not satisfied? Duty to make efforts for amicable settlement? Understanding and acquiring knowledge about enforceability of a DB decision and remedies when the decision is not complied with	Lecture with PPT, Q&A and interactive discussion
	Evening Home-Work	Preparation for Drafting of mock decision	Practice of writing a DB decision	Individual participant writes a decision as if he/she is Chair or one-person DB
Day 4	AM	Review and discussions of draft "Decisions"	Interactive review of draft decision of each participant	Discussion by all participants
	PM	Review and discussions of draft "Decisions" Close	Assessment of draft decision of each participant Conferment of Completion Certificate by : Mr. Takashi Ito, Director, Loan Procurement Policy and Supervision Division, Financing Facilitation and Procurement Supervision Department, JICA	Lecture, Q&A and interactive discussion

Profile of Trainers



Mr. Gordon L. Jaynes is a lawyer in private practice, based in England and specialized in contractual aspects of international construction projects. He is Chairman Emeritus of the International Bar Association Committee on International Construction Projects and Founding Chairman of the Inter-Pacific Bar Association of the same name. He served on the Editorial Boards of The International Construction Law Review and Construction Law International and is an experienced trainer in various countries on all forms of engineering and construction contracts. His experience in international Dispute Boards began in 1994 when he served as: a consultant to The World Bank in establishing its contract provisions for use in such Boards. He was a member of the Task Force which produced the ICC Dispute Board Rules, and a founding member of FIDIC's Assessment Panel for Adjudicators, vetting applicants for entry to the FIDIC President's List of Approved Adjudicators, for service in DABs on contracts using FIDIC Conditions. Gordon has received the DRB Foundation's Al Mathews Award for outstanding service in promoting international use of Dispute Boards. The Award is the Foundation's highest honour. Gordon currently chairs two Dispute Boards in China and Romania.



Mr. Richard Appuhn is a certified FIDIC trainer and adjudicator and serves on its Task Group for the drafting of General Conditions of Subcontract. He has BS and MS degrees in Civil Engineering and Engineering Geology from the University of California, Berkeley, is a registered Civil Engineer and Engineering Geologist in California. He is an arbitrator and adjudicator and has served and is currently serving on Dispute Boards in Romania (Motorway, Infrastructure Rehabilitation and Residential Development Projects), Vietnam (Building Construction), Ethiopia (Road Rehabilitation), Tanzania (Road Rehabilitation), Madagascar (Mineral Port Construction) and Mozambique (Airport Rehabilitation Project). His professional and dispute resolution experience includes the use of the entire Suite of FIDIC Contracts including the FIDIC MDB Harmonized Edition.



Prof. Dr. Toshihiko Omoto is a Visiting Professor at the Graduate School of Management (MBA) of Kyoto University. First Class Civil Engineer in Japan, holding Master's and Doctor's Degrees in Civil Engineering awarded by Kyoto University, Japan, and Master's Degree in Construction Law and Arbitration awarded by King's College, University of London. He is listed on the FIDIC President's List of Approved Adjudicators and is on the FIDIC Assessment Panel of Adjudicators. He has over 30 years experience in the international construction industry. He worked for a major Japanese contractor for 25 years, for 15 years of which, he was involved in resolution of engineering and construction disputes, both by amicable settlement negotiations and by arbitration. In year 2000, he began his independent consultancy, specializing in dispute resolution, representing and/or advising owners, contractors insurers etc.

トレーニングワークショップ修了証



FEDERATION INTERNATIONALE DES INGENIEURS-CONSEILS
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS
INTERNATIONALE VEREINIGUNG BERATENDER INGENIEURE
FEDERACION INTERNACIONAL DE INGENIEROS CONSULTORES



This is to certify that

Mr. OOOOO

has successfully completed

Dispute Board Adjudicator Training Workshop

held

from December 15 to December 18, 2010 in Tokyo,

organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA) in association with FIDIC and the Association of Japanese Consulting Engineers (AJCE).

Gordon L. Jaynes
Accredited Trainer, FIDIC

Richard Appuhn
Accredited Trainer, FIDIC

Toshihiko Omoto
Accredited Trainer, FIDIC

Noriaki Hirose
President, AJCE

Shigenari Koga
Director General,
Financing Facilitation and
Procurement Supervision Department,
Japan International Cooperation Agency

トレーニングワークショップに関わるアンケート調査結果(2)

Question				Comments
Name (if you do not mind)				
Motivation	Why did you apply to TW?			<ul style="list-style-type: none"> * I want to know DB System * Interest and desireness to adjudicator * To know the difference between adjudicator and the facilitator of partnering. * I am now working for one of construction company. My long experience has been under FIDIC 1987, 4th edition. For further taking care of Yen loan project, I needed to apply. * Because I with to be DB adjudicator. * I want to be an adjudicator. * To become DB. * I have engaged long for project management including bid documents preparation, which, I intend, is to be upgraded my learning DB with its primary purpose proactive effect of dispute resolution. * Because I should contribute my experience to Japanese construction industry. * It seems quite interesting and also tough to act as an adjudicator, because an adjudicator is required to be a good arrange/mediator, which is very different from arbitrator. So I applied this TW. * To become an adjudicator. * I wish to serve the public and the construction industry as a member of DB if possible. * To intend to prevent unnecessary disputes in the construction works when engaged in construction supervision as the Engineer and to intend to be an adjudicator of DAB authorized by FIDIC. * I would like to work as a member of DB. In addition, I would like to explain my client (foreign government) about the necessity of DB. * It is because I want to be listed adjudicator. * I want to be an accredited adjudicator. * To develop my skills in dispute resolution. * Because DB would be used in public works in Japan in the future. * To get a comprehensive knowledge of Contract, especially DB and to get qualification of DAB. * I was recommended to TW by my fellow. * In order to receive adjudicator assessment workshop.
	Would you have applied if TW & AW had cost you, say, 3 hundreds thousand Yen?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	<p>if No, how much is affordable cost for you?</p> <ul style="list-style-type: none"> * 30,000 Yen (2) * 100,000 Yen (3) * 150,000 Yen (2) * 200,000 Yen (2) * 25,000 Yen/day * 1,000 USD

トレーニングワークショップに関わるアンケート調査結果(2)

Question				Comments
	Do you want to apply to FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicators?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	Please specify the reason. <ul style="list-style-type: none"> * Yes, because win-win project management is my ultimate dream. * Yes, because I would like to still work in the construction industry outside Japan. * Yes, because I wish to build up the experiences as DB member. * Yes, I want to be on President's List. * Yes, because I would like to get broader channel of participatory the DB. * Yes, because Japanese who has experience should contribute more. * No, because I have no experience as an adjudicator. * Yes, but after a while and study a little bit more. * Yes, I would like to deepen more knowledge being acquainted with professional people. * Yes, because that can be a target for my life. * Yes, because it is one of the most famous list of ADAs. * Yes, as it is so honorable to be an authorized DA. * No, because National List will suffice.
Availability	Do you want to work as an adjudicator if you are appointed as a DB member at this moment?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	If No, when will you be available? <ul style="list-style-type: none"> * I am now work for a university and do not have much time to act as a DB member until 2011. I would like to work after 2013. * I may work still more 3 to 4 years up to 65 at the some company. * I must continue for my project until completion. * Employed * Yes, but depending on my other commitment. * from April 2011 * Because I am engaged in the present job that may last another couple of years. * I am working for a company. It makes me difficult to find time to be appointed. * I am working with the company at present. * I would like to have at least 6 month period to say good-bye to my current employer. * Not now, maybe a few years later.
Training and Training	Is the Kit good for self study?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	If No, please specify the reason. <ul style="list-style-type: none"> * Yes, but I expected more material including real life procedural case of DB procedure or more sample decision etc. * Yes, but I would like to have more detailed material contained.
	Is the combination of the training and the kit good?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	If No, please specify the reason. <ul style="list-style-type: none"> * Yes, but categorized further description, if contained would be more helpful. * If the differences among various editions of FIDIC are important, those differences are all to be incorporated into one kit. Too many handouts during the training may cause confusion.
	Do you think Training Workshop is good for users of DB too, for the understanding of the practical use of DB?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	If No, please specify the reason. <ul style="list-style-type: none"> * Yes, but it seems too much for the users if the content is same. * It looks rather difficult for general users of DB. * I want to have more deeper contents.

トレーニングワークショップに関わるアンケート調査結果(2)

Question				Comments
	Was TW difficult to follow?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	<p>If Yes, please specify the reason.</p> <ul style="list-style-type: none"> * I need to do much more study about MDB, because I do not have an Experience to use MDB at real projects. * I needed to remember the condition clause by clause. Finally OK, I think. * At some point, if I lose my concentration, I tend to miss the point. Maybe because I did not sleep well. * There are plenty of volume to follow. * Some English way of speeches are too native for me. * Depending on the seat where I sit, it was sometimes difficult to hear. * In certain extent, it is at least not very easy to follow home work burden, volume of documents to be read, etc.
	Are you confident that you can serve as a DB member after this training?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	<p>If No, please specify the reason.</p> <ul style="list-style-type: none"> * To be a real member of DB, I feel I need more on-site practice for a year or so. * I need a practical experience as a member of DB. * I need more experiences involved in dispute resolution. * Practical trainings are necessary to get confidence. * On-the-job training may be necessary.
	What do you suggest to improve Training Kit?			<ul style="list-style-type: none"> * To arrange more actual case study also to be distributed. Such kind of actual case study will become very helpful for the candidates of the adjudicator. * Excellent materials. Well organized. * Kit should include more on the real case procedural matter and way to handle the difficult situation. * I hope DB system is to be improved/enhanced in terms of its scope (DB itself + broader function on project management, coupled with institutional problem) as well as its span of covering the project asset (implementation stage + upstream/downstream stages) on which the training is prepared. * Please add the relevant sub-clauses of each slide so that we can easily refer to the TW and the Contract. * I would suggest that figures showing general arrangement of the each topics be inserted to assist candidate to understand easily. * I do not think this kit needs a lot to be improved. Necessary documents (such as samples, articles) are already included in one book which is very convenient. * Very understandable and readable, but more concise or shortened version is expected. * To include the indexes of CC of MDB. * If there contains more DB examples, it would help trainees having clear picture. * It is suggested that three kind of sample decision papers should be included in Attachment-3. * Index in front will be extremely useful.

トレーニングワークショップに関わるアンケート調査結果(2)

Question		Comments
	What do you suggest to improve TW?	<ul style="list-style-type: none"> * Home work volume should be arranged as one of suitable volume. To keep health condition is also very important. Especially to get suitable sleeping time is required. * I did not expect that the volume of homework be so large, especially one for the 1st Day. So, advanced notice for this would be helpful. * Sometimes I could not hear clearly what the speaker was saying. Mini microphone could be helpful. * After we spent so much time on each day home work, there I feel little award for the work. I wish we can all receive the corrected answer or at least give us the sample answer to those questions. * Model answer to the homework will be beneficial. * I would suggest that the duration of workshop is to extend one day to 5 days in order to have a case study. Also responses for written homework are expected. * Most exciting and helpful part is Mock Hearing on 3rd day. If everyone takes part of the role of chairman, it will work a lot more. * Allow for one or two hours everyday for self learning of the documents or text in the afternoon or before lunch. * If mock DB playing by qualified person is included more, not just once, it would help the participants to understand. * TW could be improved further with mock exercises. * 30 to 40 minutes of smaller workshop sessions per day may be helpful for deeper discussions. * It is quite tough to spend time to do homework after the training because most of trainee need to back to their office to work. It could be better to allocate time to do homework during training. * Use a microphone. * I think that duration of TW is too short. There is hardly time needed to re-study the kit or previous preparation for TW.

プログラム (DB アジュディケーター・アセスメントワークショップ)



Dispute Board Adjudicator Assessment Workshop



1. Date :
20 December (Mon) to 22 December (Wed), 2010

2. Time :
Morning Session : 9:00 to 13:00
Afternoon Session : 14:00 to 17:00

3. Venue :
Kousai Kaikan
5-1, Kojimachi, Chiyodaku, Tokyo
Tel : 03-5276-0333

4. Assessment Panel :
Dipl.-Ing. Volker Jurowich
Dr. Götz-Sebastian Hök
Prof. Dr. Toshihiko Omoto

5. Workshop Materials :
 - 1) JICA DB Training Kit
 - 2) FIDIC Conditions of Contract for Construction (MDB Harmonized Edition, 2006)
 - 3) JICA Sample Bidding Documents - Procurement of Works (2009)

6. Opening Session (20 December, 9:00 -) :
 - 1) Orientation Mr. Yukinobu Hayashi
Team Leader, JICA Study Team

Programme for A Three-Day Assessment Workshop

Date	Time	Topics	In charge	Case Study	
20.12.2010	Start 09.00	Welcome & Introduction of the Assessment Panel and Assesseees	Jur		
	10.30	DAB organisation	Hök	Case Study 1: Site Visit	
	13.00	Lunch			
	14.00	Multiple Choice Test	Jur/Hök		
		Case Studies	Jur	Overnighter: Case Study 2	Muddy Water
21.12.2010	09.00	Collection of Case Study			
	09.15	Multiple Choice Test Review & Questions			
	11.30	Procedural Rules: Questions + Answers	Jur		
	13.00	Lunch			
	14.00	Case Study	Hök	Case Study 3 Adjudicators fees	
		Case Study		Overnighter: Case Study 4	Bügl-Buger
22.12.2010	09.00	Collection of Case Study			
	09.15	Oral examinations + short scenario & questions	Hök/Jur		
	13.00	Lunch			
	14.00-16.00	Individual interviews			
	16.00-16.30	Conferment of Completion Certificate Closing Remarks Mr. Shigenari Koga Director General, Financing Facilitation and Procurement Supervision Department, Japan International Corporation Agency			

Profile of Assessor



Dipl.-Ing. Volker Jurowich is a civil engineer, Technical University, Aachen, Germany. He has been working with a major German international contractor for 35 years, the last 15 of which as an Executive Director. His responsibilities were part of the local business and all of the international business outside of the European Union. Projects under his direct responsibility include major infrastructure works, hydroelectric projects, harbour construction, drill and blast as well as TBM tunnelling and building works.

He has experience in dispute resolution by negotiation, by mediation, by dispute boards and by arbitration. Volker is now working as a contract consultant and in dispute resolution. He was member of the Executive Board of Directors of the DRBF from October 2006 to May 2010, President of DRBF Region 2 from October 2008 to May 2010 and is now President Elect of the Executive Board. He holds the diploma in International Commercial Arbitration from Queen Mary and Westfield College, University of London. He served on the ICC task force for Dispute Boards. Presently Volker serves on a DAB in South Africa, as Chairman of a Panel of Experts in Sudan and as single member DAB in Romania.

He is lecturer at the University of Stuttgart on international construction. Volker is listed on the FIDIC President's List of Approved Adjudicators. He is Chairman of the Assessment Panel for the German National List of FIDIC Adjudicators.



Dr. Götz-Sebastian Hök graduated in Law from Göttingen University and is a German solicitor registered at the Berlin Bar. The University of Göttingen has awarded a phd in law to Sebastian Hök in 1993. Sebastian Hök has extensive international project and commercial experience gained while working in Europe, the Middle East, Africa and Asia. For the past 20 years he has been partner and senior partner of Dr. Hök, Stieglmeier & Kollegen. Sebastian Hök is acting as arbitrator, adjudicator and legal counsel. He is a lecturer at Berlin University of applied science for construction contract management law and also a licensed FIDIC trainer having trained engineers, architects and lawyers on FIDIC in the Middle East, India, Europe and Africa. Since 2009 he is an assessed FIDIC listed Adjudicator. He was member of DAB and arbitral panels in Bosnia, Germany, Latvia and Poland. Dr. Hök has written various books and articles in French, English and German on FIDIC forms of contract. In particular he is the author of the German Handbuch des Internationalen und ausländischen Baurechts (Manual of International and foreign construction law) and the co-author of the book FIDIC for Practitioners.

He is also a member of the German Dispute Adjudication Assessment Panel and former past Chairman of Eurojuris Commission International Litigation. Moreover he was also a friendly reviewer of the FIDIC Gold Book and the FIDIC Subcontract form. Dr. Hök has broad forensic experience as a legal counsel and as a member of the Engineer's team. He was involved in infrastructure and housing projects in Algeria (LNG plant, Mosque), Angola (water project), Australia (Mining project), Azerbaijan (Shopping Mall), Afghanistan (Roads and other infrastructure), Belgium, Bosnia (Roads), Cameroon (Power Plants), Cape Verde (Port), Chile (Food plant), England (Housing, Power Plant), France (High Rack Storage Area, Airport), Germany (Housing, Off-shore windmill Parks, Windmill Parks), Ghana (Dam), Laos (Mining), Latvia (Airport), Qatar (Town development, Railway, FIFA Pavillion), Poland (Roads, Plant), Romania (Waste Water Treatment Plant, Railways), South Africa (Windmill Park), Syria (Dam), Turkey (Plant), United Arab Emirates (Refurbishment of monuments, architectural projects) and Vietnam (Plant, Port).



Prof. Dr. Toshihiko Omoto is a Visiting Professor at the Graduate School of Management (MBA) of Kyoto University. First Class Civil Engineer in Japan, holding Master's and Doctor's Degrees in Civil Engineering awarded by Kyoto University, Japan, and Master's Degree in Construction Law and Arbitration awarded by King's College, University of London. He is listed on the FIDIC President's List of Approved Adjudicators and is on the FIDIC Assessment Panel of Adjudicators. He has over 30 years experience in the international construction industry. He worked for a major Japanese contractor for 25 years, for 15 years of which, he was involved in resolution of engineering and construction disputes, both by amicable settlement negotiations and by arbitration. In year 2000, he began his independent consultancy, specializing in dispute resolution, representing and/or advising owners, contractors insurers etc.

FIDIC – JICA

Dispute Board Adjudicator Assessment Workshop

Tokyo, 20 -22 December 2010

Overview Report of the Assessment Panel

Assessment Panel:

- Prof. Dr. Toshihiko Omoto, Tokyo, Japan
- Dr. Götz-Sebastian Hök, Berlin, Germany
- Dipl.-Ing. Volker Jurowich, Stuttgart, Germany

The Assessment Panel was approved by FIDIC and JICA.

The Panel Members agreed on Mr. Jurowich to act as Chairman.

All three Panel Members are listed on the FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicators.

Prof. Omoto is Member of the Assessment Panel for the FIDIC President's List.

Dr. Hök and Mr. Jurowich are Members of the Assessment Panel for the German National List of FIDIC Adjudicators, established by VBI (Verein Beratender Ingenieure, Berlin, Germany), the German Member Association of FIDIC.

Assessment Workshop Format:

The format of the Assessment Workshop was established on the basis of experience gained from executing multiple Assessments for the FIDIC President's List and for the German National List.

The basic elements of the Assessment Workshop were:

- One (1) multiple choice test
- Four (4) nos. case studies, two of which as homework to be prepared by the candidates overnight.

- Oral examinations covering: DAB organisation, DAB Procedural Rules, understanding of contract clauses, extension of Time for Completion, Price Adjustment, Variations, etc.
- Individual Interviews.

The Assessment Workshop is a strenuous exercise for the candidates, as is Dispute Adjudication.

Objective of the Assessment Workshop:

The objective of the Assessment Workshop is to assess the candidates’:

- Familiarity on condition of contract of FIDIC MDB version
- Ability of applying condition of contract on claims and to extract potential contract problems
- Ability in writing clear, reasoned and persuasive decisions
- Ability in decision-making (proficiency for adjudication)
- Ability of working under time constraint
- Ability of verbal communication skill with concerned parties
- Interpret contract clauses
- Put given situations into a contractual context
- Understand the role of, the rules for and the requirements upon a Dispute Adjudicator
- Identify issues in a dispute
- Understand the dispute avoidance priority

And also:

- Re-verifying the effectiveness of JICA DB Training Kit that was developed for the Training Workshop. The Training Kit was drafted as a part of JICA’s study in 2010 - “Introduction and Dissemination of DAB Adjudicators in Asian Region”. APA considers that the result of the assessment is a demonstration of the overall suitability of the Kit.

Admission of Candidates:

The selection of candidates was done in accordance with the recommendations made by both OCAJI (Overseas Contractors Association of Japan Incorporated) and AJCE (Association of Japanese Consulting Engineers) in line with the Guideline (Guideline for Implementation of Qualification Procedure of DB Adjudicators(draft)) established in March 2010 by the Study Team for the Study

on the Introduction and Dissemination of DAB/Adjudicators in the Asian Region.

A total of nineteen (19) candidates were admitted to the Assessment Workshop, out of which fourteen (14) are engineers, four (4) are lawyers and one (1) is economist.

General Comments:

Dispute Adjudication, as incorporated in the FIDIC Forms of Contracts, is the first tier of a two tier dispute resolution procedure. As such, decisions made by the Adjudicators, will only put an end to the disputes by acceptance of the decisions by all Parties.

It is therefore important that the Adjudicators do not only have the ability to make the right decisions in line with the Contract concluded by the Parties, but also that they are able to make the Parties understand the reasons basis for decisions and at all times are able to demonstrate a conduct of highest standards of ethics and competence.

If that is safeguarded, Dispute Adjudication will continue to be the most efficient and successful dispute resolution process.

With that in mind the Assessment Panel proceeded. The chosen format was well able to establish the candidates' qualifications as Dispute Adjudicators individually.

There was sufficient occasion to check candidates individually on certain issues, when a previous test was not entirely convincing.

Result of the Assessment Workshop:

The Assessment Panel has come to a unanimous decision to qualify as "PASSED" 10 out of 19 candidates. The names of the candidates who passed the assessment will be reported separately.

The Assessment Panel hereby expresses its congratulations to the successful candidates and wishes them success in their future activities.

The Assessment Panel further wishes to encourage the unsuccessful candidates to improve their qualifications through further training and training workshops.

Assessment Workshop Venue:

The Assessment was conducted at Kosai Kaikan, 5-1, Kojimachi, Chiyoda-ku, Tokyo. The Assessment Panel was pleased with the facilities and the services provided which were entirely suitable.

Recognition:

The Assessment Panel would like to express its gratitude to FIDIC, JICA and AJCE for having been entrusted with the execution of the Assessment, and also to the candidates, all of whom are experienced and reputed professionals, for allowing us to assess them.

Assessment Panel for Adjudicators

Three handwritten signatures in blue ink, arranged horizontally. The first signature on the left is highly stylized and cursive. The middle signature is more legible, appearing to read 'H. Jurovich'. The signature on the right is also cursive and appears to read 'G. Hök'.

Prof. Dr. Toshihiko Omoto Dipl.-Ing. Volker Jurovich Dr. Götz-Sebastian Hök

アセスメントワークショップ修了証



FEDERATION INTERNATIONALE DES INGENIEURS-CONSEILS
INTERNATIONAL FEDERATION OF CONSULTING ENGINEERS
INTERNATIONALE VEREINIGUNG BERATENDER INGENIEURE
FEDERACION INTERNACIONAL DE INGENIEROS CONSULTORES



This is to certify that

Mr. OOOOO

has completed

Dispute Board Adjudicator Assessment Workshop

held

from December 20 to December 22, 2010 in Tokyo,

organized by the Japan International Cooperation Agency (JICA) in association with FIDIC and the Association of Japanese Consulting Engineers (AJCE).

Götz-Sebastian Hök
Accredited Trainer, FIDIC

Volker Jurowich
Accredited Trainer, FIDIC

Toshihiko Omoto
Accredited Trainer, FIDIC

Noriaki Hirose
President, AJCE

Shigenari Koga
Director General,
Financing Facilitation and
Procurement Supervision Department,
Japan International Cooperation Agency

アセスメントワークショップに関わるアンケート調査結果

Question				Comments
Name (if you do not mind)				
Motivation	Why did you apply to TW and AW?			<ul style="list-style-type: none"> * Do want to be an adjudicator. * My various dispute solution experienced outside Japan for 30 years should be contributed to the people who want to be working overseas construction industry. * Being interested in a new job. * To become DB. * To develop my knowledge and skills. * Because I want to be an adjudicator officially accredited by FIDIC. * For a qualification for listed adjudicator. * I desire to be adjudicator. * I wanted become a member of DB, however, I now realized it is a quite challenge. * Because I wanted to be adjudicator. * Because I with to be adjudicator if qualified. I have had a great interest in the international construction contract management, I wish to continue. * The company I am working for asked me to apply to AW. * To get qualification of adjudicator. * To skill up my contract management ability and I am wishing to work at the construction industry as long as possible even though as a DBA member. * I have hoped to become awarded and act as DB member to serve the world. * Requirement of dispute settlement, especially with a proactive mean, will be developed in the developing countries in Asia and nearby region. * If I could become an adjudicator, this could be very big benefit for my career. * I wanted to know how DB worked, Procedure System, etc. * To minimize the unnecessary disputes in the construction works and to become an authorized adjudicator.
	Would you have applied if TW & AW had cost you, say, 2 hundreds thousand Yen?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	if No, how much is affordable cost for you? <ul style="list-style-type: none"> * 20,000 Yen * 40,000 Yen * 50,000 Yen * 80,000 Yen * 100,000 Yen (5)
	Do you want to apply to FIDIC President's List of Approved Dispute Adjudicators?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	Please specify the reason. <ul style="list-style-type: none"> * Yes, because it will be honorable. * Yes, because that can be another challenge for rest of my life. * Yes, because it would provide me with motivation. * No, because I will not be eligible at present knowledge. * No, I have not reached such standard. After further practice and study, I wish to apply in future. * Yes, because I want to go this path as far as I can go. * Yes, because I wish to accumulate my experiences. * No, not for the time being. In the mean time national list will suffice. * Yes, FIDIC President's List is one of major ones for adjudicator. * Yes I would like to work as a DAB member in the future. * Yes, but when I am ready. * Yes, for making broader skill, not on in ordinary mean but also in cultural mean. * No, because I have now no experience as an adjudicator.

アセスメントワークショップに関わるアンケート調査結果

Question				Comments	
Availability	Are you available if you are appointed as a DB member at this moment?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	If No, when will you be available?	<ul style="list-style-type: none"> * I need some period, 3 to 6 months, to say good-bye to my current employer. * Under employment. After finishing my assignment, I do. * I am engaged in the current job in Taiwan. * Possible from April 2011. * Yes, but depending on the other members and type of project. * I still have a project to complete. * No, not for the time being as I am now working for the company. * I am currently employed by a company. * I am going to work at some company still more 2 to 3 years. * I would, but I have to talk with my availability with the company. * Yes, but I need to check my schedule to make time for it, because I have several tasks in the university.
Assessment Worksh	Was TW suitable preparatory course for AW?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	If No, please specify the reason.	<ul style="list-style-type: none"> * Partly yes, partly discrepancies. But in any way, I learned a lot both from TW and AW as well as colleague participants. * Yes, but it would be better to provide more on how to prepare decision papers.
	Was AW fair to follow up TW?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	If No, please specify the reason.	<ul style="list-style-type: none"> * Some discrepancies. * Considering the toughness of AW, it is better TW to give training more in detail.
	Was AW difficult to follow?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	If Yes, please specify the reason.	<ul style="list-style-type: none"> * Homework was really tough. * Too many homework involved. * Simply because I had not be accustomed to the way of conducting assessment. * I had a little difficulty to follow a clause by clause. It's improved gradually. * Due to lack of preparation of myself. * Difficult in terms of the volume of work we have to do. * A little bit much volume of homework forced to cut sleeping time. * It refers a lot of matter including laws (It means I must study more). * More through reading and understanding of the conditions of contract is needed.
	What do you suggest to improve AW?				<ul style="list-style-type: none"> * As the duration of AW was so compressed, utilizing e-mail in the course would be suggested in order to take more time to study. * Because homework are not returned with comments or remarks, the result can not be reflected to the next assignment. * Time for AW is a bit short to learn what should a person act as a DB. * Applicants are needed detailed information well before AW takes place. * I have thought we will have a mock-up hearing and play a role as chairman and do the assessment. * To adjust the volume of homework not to disrupt next day's workshop. * Some specific comments on each candidate's homework could improve the ability of candidates a lot. * I think that it needs to set up some interval between TW and AW. * More simplicity is expected on the questionnaire and homework to prepare the decision.

アセスメントワークショップに関わるアンケート調査結果

Question				Comments
	Will you apply again if you fail the assessment?	<input type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	Please specify the reason.
				<ul style="list-style-type: none"> * Yes, because one of the interested area for me to contribute the society. * No, because it is too tough to have a return match. * Yes, after 3 to 5 years later, because I need more knowledge and experiences in construction contractual matters. * Yes, but not so many later. * Yes, after further study, I want to try again. * Yes, but I hope I don't have to. If I have to, I will. * No, because it makes me so tired since I am not so young. * Yes, because I am interesting in this job. * Yes, but it depends on the fee.

ワークショップ写真集

1. トレーニング・ワークショップ 風景写真



大本俊彦氏による開会挨拶



Gordon Jaynes 氏による講義



Richard Appuhn 氏による講演



講師陣による模範ロールプレイ



受講者によるロールプレイ



受講生による Decision(決定)の説明



講師によるトレーニングワークショップ総括



JICA 伊藤課長による修了証授与



JICA 伊藤課長による閉会の挨拶



集合写真

2. アセスメント・ワークショップ風景写真



林幸伸氏によるワークショッププログラムの説明



審査員 (左から)
 大本俊彦氏, Volker Jurowich 氏, Götz-Sebastian Hök 氏



Götz-Sebastian Hök 氏による口頭試問



Volker Jurowich 氏による口頭試問



質疑応答



受講者へのインタビュー



JICA 古賀部長による修了証の授与



JICA 古賀部長による閉会挨拶